

平成25年度  
富山市モビリティ・マネジメント  
教育推進事業支援業務  
報告書

平成26年3月  
富山市

## 目 次

第1章	本事業の概要	1
1-1	事業の目的	1
1-2	事業内容と検討体制	2
第2章	協議会および検討部会の設置・運営	3
2-1	富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会	3
	(1) 目的	3
	(2) メンバー	3
2-2	検討部会	3
	(1) 目的	3
	(2) メンバー	3
2-3	3ヶ年の検討内容とステップのイメージ	4
2-4	平成25年度の取り組み	5
第3章	学習プログラムの企画・実施	6
3-1	学習プログラム確立に向けた考え方	6
	(1) 4年間の学習ステップ	6
	(2) 学習プログラムのアウトプットイメージ	7
3-2	副読本への掲載	8
	(1) 副読本と学習プログラムの関係	8
	(2) 副読本への掲載内容	8
3-3	PRチラシの作成	9
3-4	学習プログラムの企画・実施結果	10

3-5	学習プログラムの実施内容と評価	11	
(1)	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>社会科</td></tr></table> 3年生の学習プログラム	社会科	11
社会科			
(2)	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>社会科</td></tr></table> 4年生の学習プログラム	社会科	15
社会科			
(3)	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>社会科</td></tr></table> 6年生の学習プログラム	社会科	19
社会科			
(4)	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>総合</td></tr></table> 3～4年生の学習プログラム	総合	23
総合			
(5)	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>総合</td></tr></table> 5～6年生の学習プログラム	総合	26
総合			
第4章	教員に対する学習プログラムの普及啓発	30	
4-1	普及啓発の方法	30	
4-2	実施結果	31	
(1)	ワークショップの開催	31	
(2)	社会科と総合的な学習の時間の部会でのPR	35	
(3)	教員の先進地視察	35	
(4)	その他	37	
第5章	保護者を含めた市民への啓発活動	38	
(1)	とやまレールライフ・プロジェクトとの連携	38	
(2)	まちなかの各種施設との連携	39	
第6章	支援制度終了後の実施計画の検討	42	
(1)	モビリティ・マネジメント教育普及啓発事業の目的	42	
(2)	普及啓発のための取り組み	43	
(3)	普及啓発の成果把握	46	
(4)	平成26年度以降の課題	47	

# 第1章 本事業の概要

## 1-1 事業の目的

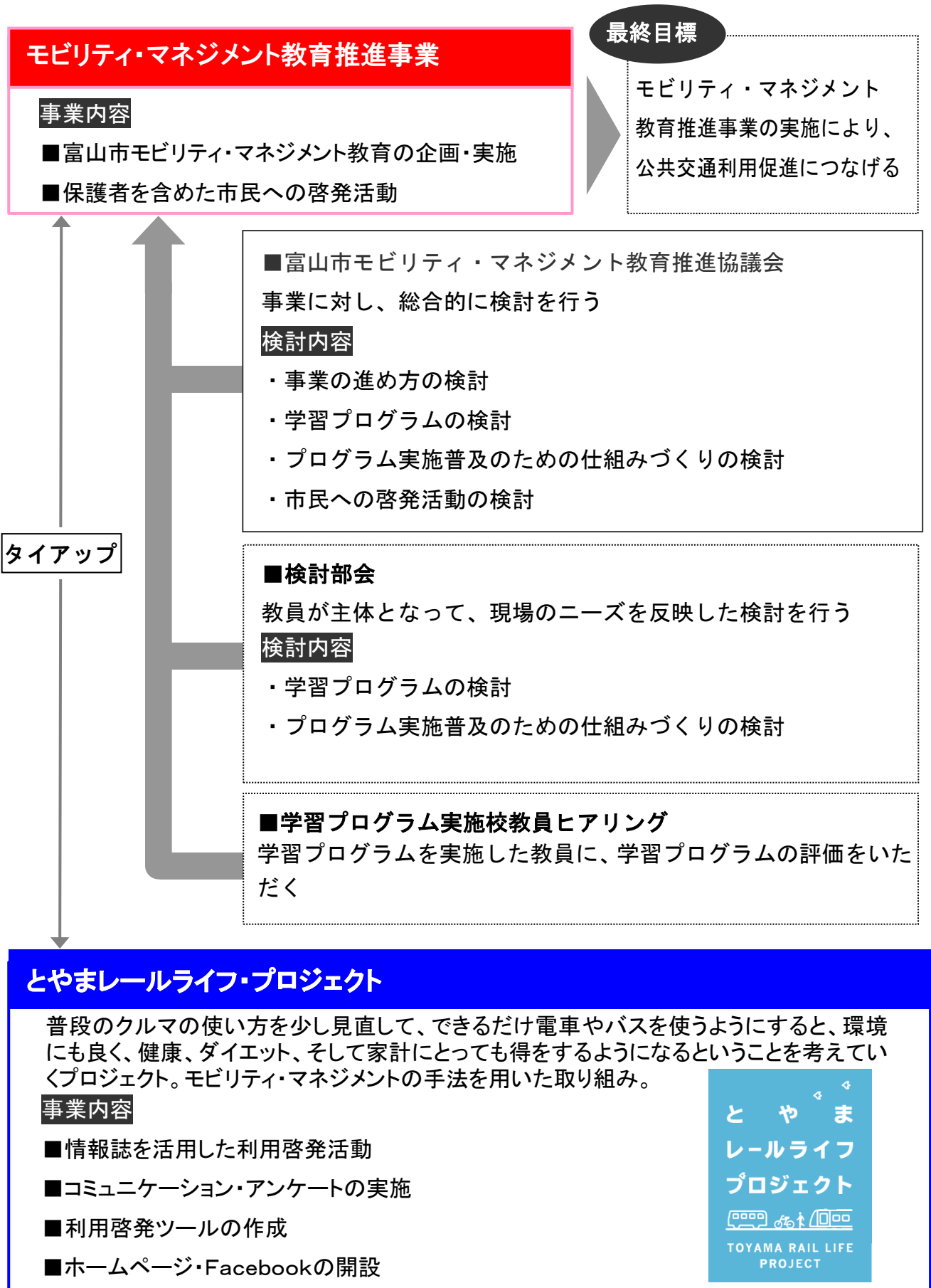
富山市では、「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」の視点から、富山ライトレール及び市内電車環状線の開業、JR高山本線活性化社会実験、幹線バス路線の整備等を順次実施しており、その結果、一部で公共交通利用者数が回復傾向を示すなど、市民の公共交通への関心が高まりつつあることから、これらを契機に平成22年度から「とやまレールライフ・プロジェクト」として、住民一人ひとりが交通手段をかしこく選択できるようなコミュニケーション施策（モビリティ・マネジメント）を展開し、公共交通のさらなる利用促進を図っている。

本事業では、小学生から環境や社会について意識を向け、公共交通の利用について意識醸成を図ることを目的に、学習プログラムの内容等を検討し、指定小学校で実施する。また、その効果を把握・検証し、「富山市モビリティ・マネジメント教育学習プログラム」の確立につなげる。

あわせて、保護者を含めた市民に対して啓発活動を展開する一連のモビリティ・マネジメントにも取り組むことで、公共交通の利用促進につなげる。

平成23年度から3カ年は、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団の支援を受け検討を行い、平成26年度からの事業の本格実施を目指す。

## 1-2 事業内容と検討体制



## 第2章 協議会および検討部会の設置・運営

### 2-1 富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会

#### (1) 目的

本事業に対して総合的な検討を行うため、富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会を設置している。

#### (2) メンバー

##### ○委員

所 属	氏 名
金沢大学 理工研究域 環境デザイン学系 教授	高山 純一
玉川大学 教育学部 教育学科 教授	寺本 潔
筑波大学 大学院 システム情報系 准教授	谷口 綾子
富山市立五福小学校 校長	柳内 誠治
富山市小学校教育研究会 社会科部会 部長	青山 寿夫
富山市小学校教育研究会 総合的な学習の時間部会 部長	堀江 修
富山市教育委員会 学校教育課 主幹指導主事	吉藤 重弘
富山市PTA連絡協議会 顧問	水野 雅人
国土交通省 北陸信越運輸局 交通環境部 環境課 課長	佐藤 収一

### 2-2 検討部会

#### (1) 目的

現場のニーズに合った学習プログラムの内容等の検討を目的に、日頃から熱心に小学校教育研究会活動（社会科部会、総合的な学習の時間部会）に取り組んでいる教員の方々から構成される検討部会を設置している。

#### (2) メンバー

所 属	小学校	氏 名	担当学年
実践校	五福小学校	柳内 誠治(座長)	校長
社会科部会	保内小学校	劔田 秀則	
	八尾小学校	津幡 和英	4年
	五福小学校	藤嶋 広樹	5年
総合部会	呉羽小学校	堀 泰洋	6年
	東部小学校	渡辺 純恵	

## 2-3 3ヶ年の検討内容とステップのイメージ

富山市モビリティ・マネジメント教育を確立し、教員や保護者を含めた市民への普及を目指すため、本事業の検討項目を大きく3つに設定した。

**検討項目 1**：富山市モビリティ・マネジメント教育学習プログラムの企画・実施

**検討項目 2**：富山市モビリティ・マネジメント教育学習プログラムの教員への普及啓発

**検討項目 3**：富山市モビリティ・マネジメントの保護者を含めた市民への啓発活動

それぞれの検討項目について、以下のように3カ年進めてきた。

	平成 23 年度 導入年	平成 24 年度 ブラッシュアップ年	平成 25 年度 確立年
<b>検討項目 1</b> 学習プログラムの 企画・実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>■検討</li> <li>■実施（2プログラム）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生社会科</li> <li>・4年生社会科</li> </ul> </li> <li>■実施成果とりまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■検討</li> <li>■実施（4プログラム）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生社会科</li> <li>・4年生社会科</li> <li>・6年生社会科</li> <li>・4年生総合的な学習の時間</li> </ul> </li> <li>■実施成果とりまとめ</li> <li>■副読本掲載に向けた検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■検討・確立</li> <li>■実施（5プログラム）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生社会科</li> <li>・4年生社会科</li> <li>・6年生社会科</li> <li>・3～4年生総合的な学習の時間</li> <li>・5～6年生総合的な学習の時間</li> </ul> </li> <li>■実施成果とりまとめ</li> <li>■教材完成</li> <li>■3・4年生社会科副読本 掲載に向けた検討</li> <li>■MM教育PRチラシの作成</li> </ul>
<b>検討項目 2</b> 教員への普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>■普及のための仕組み づくりの検討</li> <li>■公開授業の実施                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生社会科（五福小学校）</li> </ul> </li> <li>■教員の先進地視察                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■普及のための仕組み づくりの検討</li> <li>■普及啓発活動の実施                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科部会でのPR</li> <li>・総合的な学習の時間部会でのPR</li> </ul> </li> <li>■教員の先進地視察                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・金沢市</li> <li>・京都府</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■普及のための仕組みづく りを検討・確立</li> <li>■普及啓発活動の実施                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科部会でのPR</li> <li>・総合的な学習の時間部会でのPR</li> <li>・ワークショップの開催</li> </ul> </li> <li>■教員の先進地視察                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台市</li> <li>・金沢市</li> </ul> </li> </ul>
<b>検討項目 3</b> 保護者を含めた 市民への啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>■とやまルールライフ フォーラムとの連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本モビリティ・マネジ メント会議(JCOMM) との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■とやまルールライフ・プロ ジェクトとの連携</li> <li>■子供向けイベントの開催</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>■関係機関との調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■関係機関との調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■関係機関との調整</li> <li>■支援制度終了後の実施 計画の策定</li> </ul>

## 2-4 平成25年度の取り組み

### 学習プログラムの教員への普及啓発

社会科部会にて事業内容の説明（4月15日）

総合的な学習の時間部会にて事業内容の説明とワークショップの開催（5月13日）

学習プログラムの教員への普及啓発（4月12日） 校長会でのPR

### 学習プログラムの企画・実施（5月22日）

「富山市のいろいろな乗り物」（3年生社会科）を五福小学校で実施

学習プログラムの教員への普及啓発（5月22日） ワークショップの開催

### 第1回検討部会（5月22日）

学習プログラムの教員への普及啓発（7月12～13日） 教員の先進地視察（仙台市）

## 第1回協議会（8月29日）

保護者を含めた市民への普及啓発（9月29日） とやま公共交通ふれあいデーの開催

### 学習プログラムの企画・実施（10月9日）

『おでかけ定期券』って何だろう？（3～4年生総合的な学習の時間）を東部小学校で実施

学習プログラムの教員への普及啓発（10月9日） ワークショップの開催

### 第2回検討部会（10月9日）

### 学習プログラムの企画・実施（10月29日）

「富山県の交通の広がり」（4年生社会科）を八尾小学校で実施

学習プログラムの教員への普及啓発（10月29日） ワークショップの開催

### 第3回検討部会（10月29日）

### 学習プログラムの教員への普及啓発（11月1日）

持続発展教育（ESD）実践発表会（公開授業・研究協議会）の開催

### 学習プログラムの企画・実施（11月12日）

「環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう！」（5～6年生総合的な学習の時間）を呉羽小学校で実施

学習プログラムの教員への普及啓発（11月12日） ワークショップの開催

### 第4回検討部会（11月12日）

学習プログラムの教員への普及啓発（11月27日） 教員の先進地視察（金沢市）

### 学習プログラムの企画・実施（12月2日）

「富山市の新しいまちづくり」（6年生社会科）を五福小学校で実施

学習プログラムの教員への普及啓発（12月2日） ワークショップの開催

### 第5回検討部会（12月2日）

### 第6回検討部会（1月24日）

## 第2回協議会（2月20日）

### 第7回検討部会（2月28日）



### 第3章 学習プログラムの企画・実施

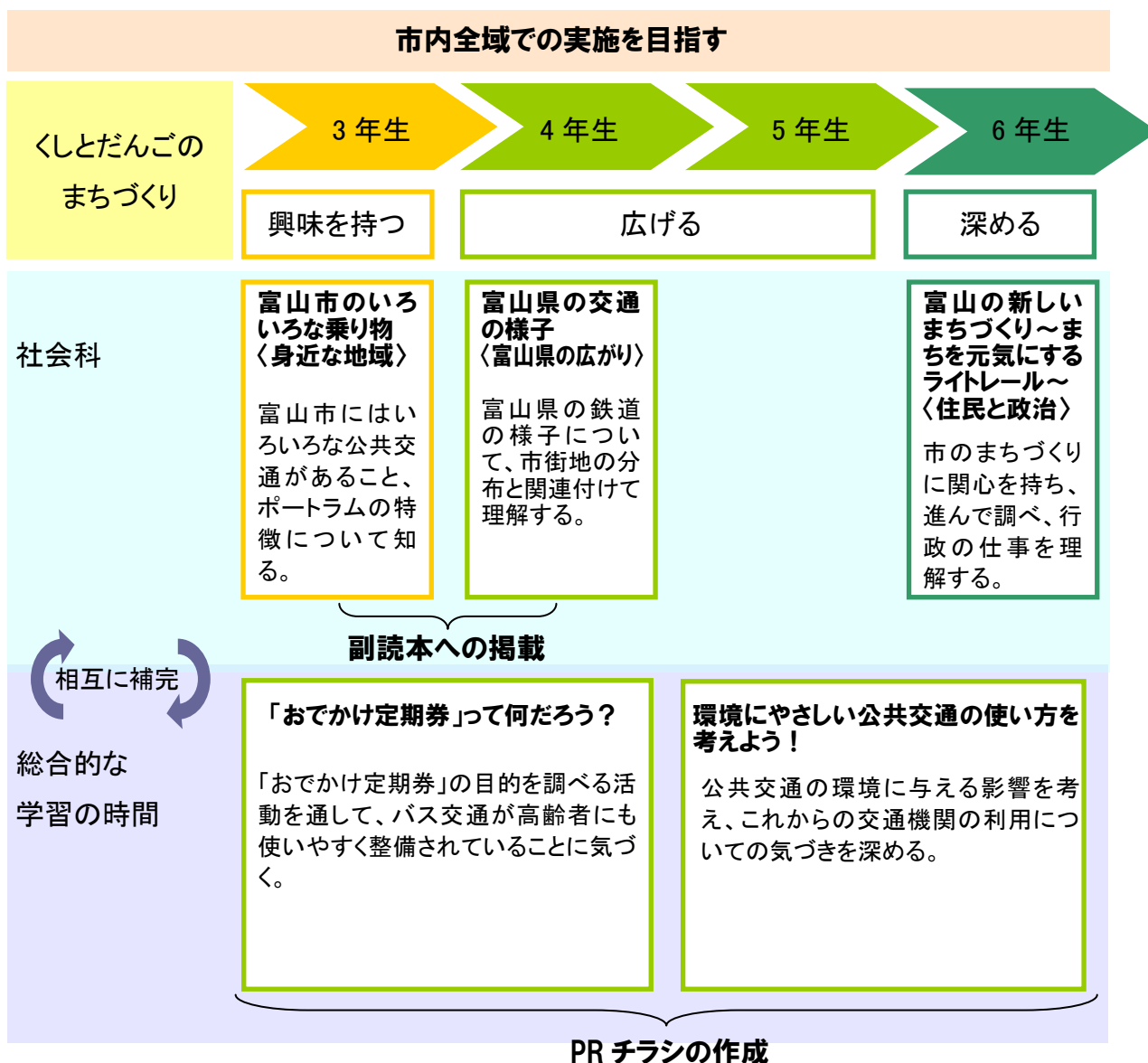
#### 3-1 学習プログラム確立に向けた考え方

##### (1) 4年間の学習ステップ

モビリティ・マネジメント教育推進事業は、「くしとだんごのまちづくり」の理解を通して公共交通利用の促進を最終目標としている。1年間だけの実施ではモビリティ・マネジメント教育は児童に定着しないため、3～6年生の4学年においてステップを踏みながら市内全域での学習プログラムの実施を目指す。

社会科と総合的な学習の時間で学習プログラムを作成し、相互に補完しながらモビリティ・マネジメント教育を推進する。

社会科において、3・4年生では、教員が取り組みやすいよう3・4年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』への掲載を行う。また、教員が取り組むきっかけをつくるため、学習プログラムの概要や教科との関連付けを掲載したPRチラシを作成した。

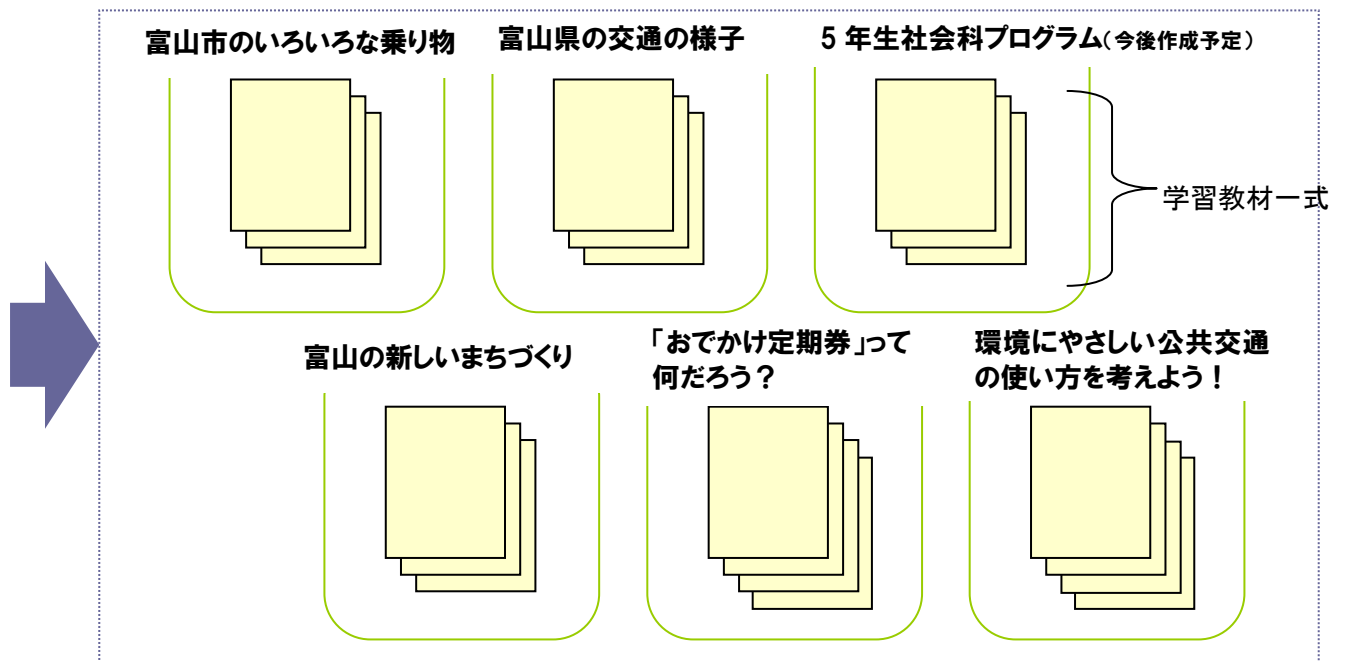
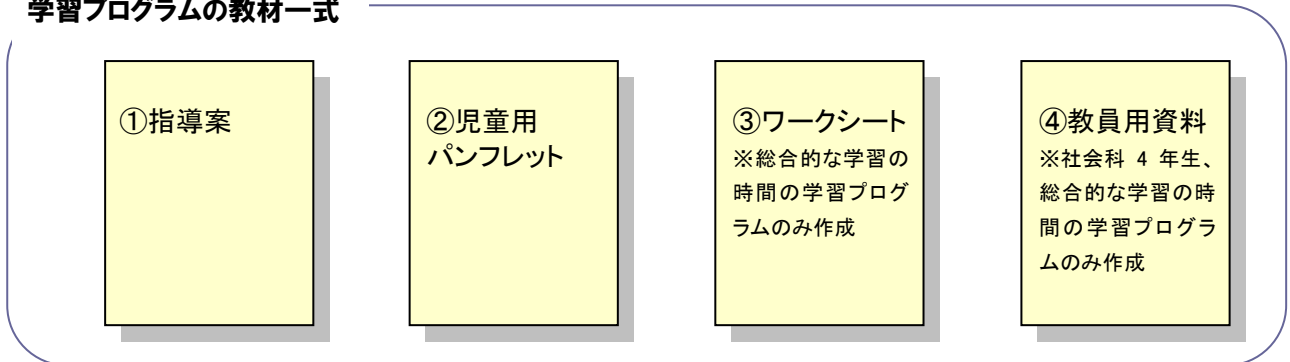


## (2) 学習プログラムのアウトプットイメージ

各学習プログラムにつき、①指導案、②児童用パンフレット、③ワークシート（総合的な学習の時間の学習プログラムのみ作成）、④教員用資料（社会科4年生、総合的な学習の時間の学習プログラムのみ作成）を用意した。

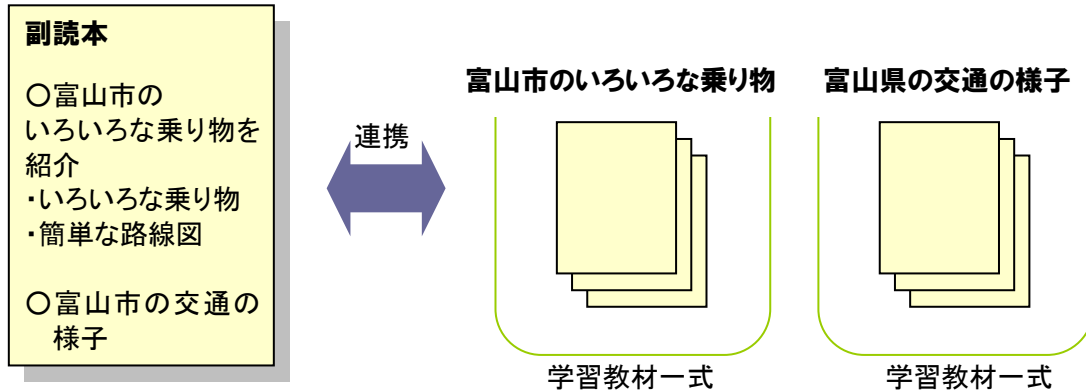
完成した各学習プログラムについては、平成26年4月に富山市内全小学校へ配布するほか、教員が富山市教育センターホームページからデータをダウンロードできるように情報提供を行うものとする。

### 学習プログラムの教材一式



### 3-2 副読本への掲載

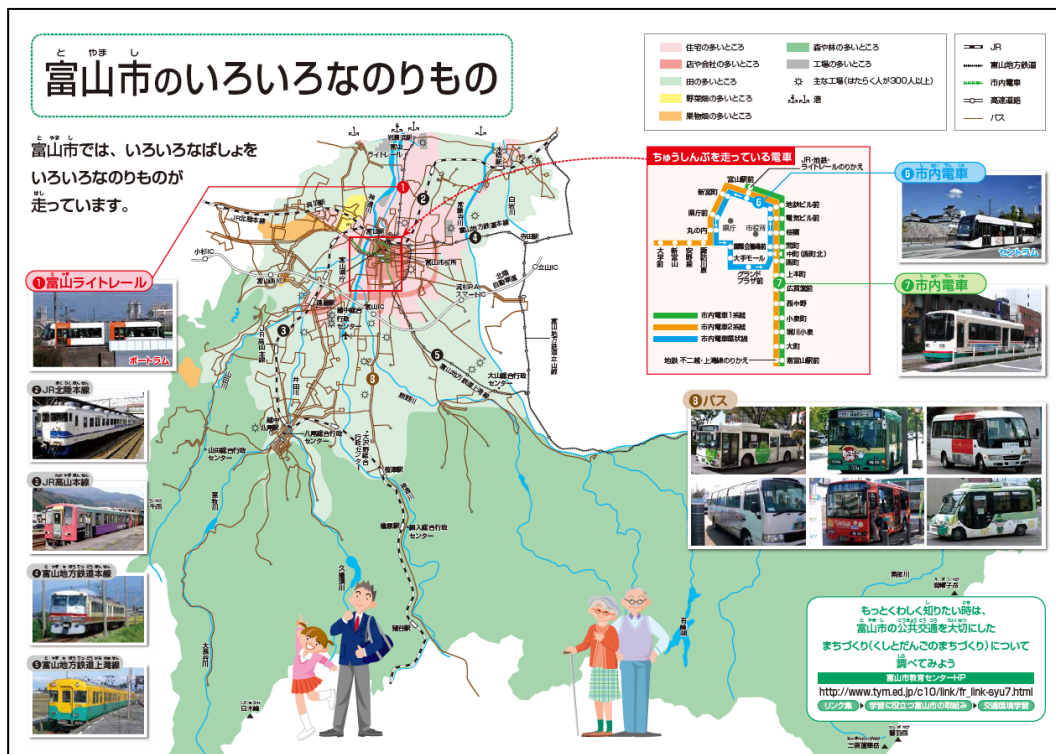
#### (1) 副読本と学習プログラムの関係



#### (2) 副読本への掲載内容

平成26年度版の3・4年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』に新たに2ページを追加し、富山市モビリティ・マネジメント教育に関する内容を掲載することとした。

2ページにわたり、土地利用図にバスや鉄道といった公共交通路線を掲載した地図と公共交通の写真を掲載した。富山市のくしとだんごのまちづくりについては、富山市教育センターホームページに掲載する情報へアクセスできるようにURLを記載した。



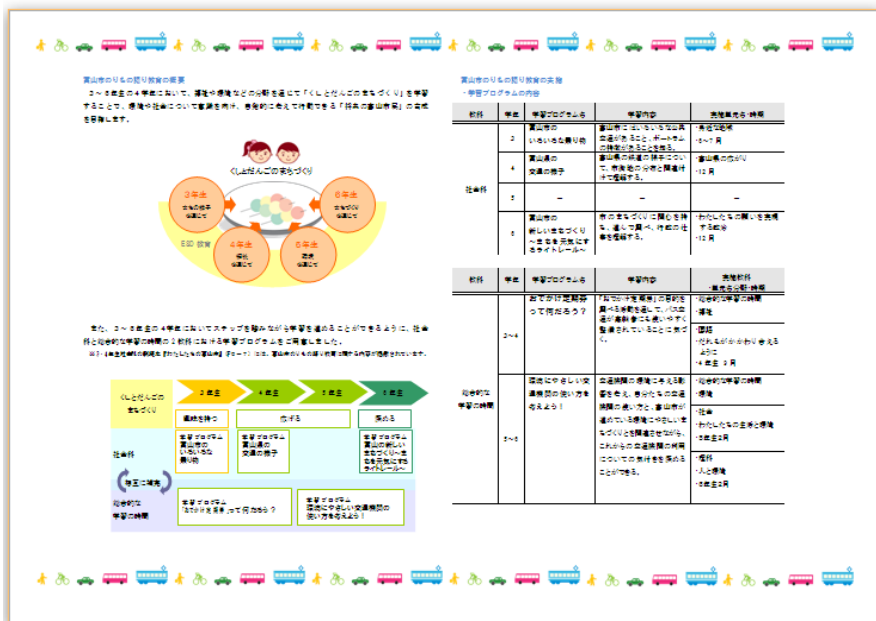
掲載内容（見開き2ページ）

### 3-3 PRチラシの作成

教員が取り組むきっかけをつくるため、学習プログラムの概要や教科との関連付けを掲載したPRチラシを作成した。作成したPRチラシは、富山市教育センターホームページへ掲載するとともに、校長会や市内全小学校へ配布するものとする。



A3 外面



A3 中面

### 3-4 学習プログラムの企画・実施結果

学習プログラムの企画と実施結果を以下に示す。平成25年度の企画・実施をふまえ、各学習プログラムを確立した（社会科5年生を除く）。

表 学習プログラム企画・実施

#### ○社会科

学 年	企 画	平成25年度実施	確立
3年生	富山市のいろいろな乗り物	○	●
4年生	富山県の交通の様子	—	●
	富山県の広がり	○	—
5年生	※平成26年度以降に企画・実施		
6年生	富山市の新しいまちづくり	○	●

#### ○総合的な学習の時間

学 年	企 画	平成25年度実施	確立
4年生	「おでかけ定期券」って何だろう？	○	●
5年生	環境にやさしい公共交通の使い方を考えよう！	○	●

表 学習プログラム実施詳細

#### ○社会科

	学習プログラム	実施小学校	クラス数	実施日
3年生	富山市のいろいろな乗り物	五福小学校	1クラス	平成25年5月22日(水)
4年生	富山県の広がり	八尾小学校	1クラス	平成25年10月29日(火)
6年生	富山市の新しいまちづくり	五福小学校	1クラス	平成25年12月2日(月)

#### ○総合的な学習の時間

	学習プログラム	実施小学校	クラス数	実施日
3・4年生	「おでかけ定期券」って何だろう？	東部小学校	1クラス	平成25年10月9日(水)
5・6年生	環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう！	呉羽小学校	1クラス	平成25年11月12日(火)

### 3-5 学習プログラムの実施内容と評価

#### (1) **社会科** 3年生の学習プログラム

##### ①実施結果

##### i) 実施概要

実施日：平成25年5月22日（水）1時限

実施場所：五福小学校

実施者：松村清重 教諭

対象校・学年：五福小学校3年2組

学習プログラム：富山市のいろいろな乗り物

##### ii) 学習プログラム内容

プログラム名	富山市のいろいろな乗り物
学習のねらい	・富山市にはいろいろな公共交通があることやポートルムの特徴を知り、公共交通に興味を持つ。
時限数	・1時限
学習内容	・公共交通と土地利用が結びついていて、富山市にはさまざまな公共交通があることや富山市を代表するポートルムの特徴について知ることにより、自分たちの住む地域や公共交通への愛着を深めることを目指す。  ①富山市のいろいろな公共交通 ②くしとだんごのまちづくり（6年生で学習するため簡易的に） ③ポートルムの特徴（富山市の代表的な公共交通として選定）

##### iii) 授業風景





iv) 児童用パンフレット

## とよまし 富山市のいろいろなのりもの

富山市では、いろいろなばしょを  
いろいろなのりものが  
走っています。

**1 ポートラム**

**2 JR北陸本線**

**3 JR富山本線**

**4 富山地方鉄道本線**

**5 富山地方鉄道上巻線**

**ちゅうしんぶを走っている電車** JR 池越線・ポートラムのゆえ

**6 セントラム**

**7 のろめん電車**

**8 バス**

A3 外面

## くしとだんごのまちづくり

富山市では、すもばしょやかいものをするばしょ「だんご」を、  
子どもやこれいしゃなど、だれでもりようできるこきょう交通  
「くし」でつなげたまちをめざしています。

**だんご**

すむところ、かいものをするところ、はたらくところなどがあつまっているばしょ

**くし**

だんごどうしをつなげる電車やバスなどのりもの(てつきどうとうんこう本線が多いバスせん)

いくつものだんごが、くしによってつながれています。

くしがだんごをつなぐようなまちを、富山市はめざしています。

### 「くし」のひとつであるポートラム

**ポートラムのすごいところ**

- まち時間が少ない**  
朝10時～夜9時の間は、15分に1回はポートラムが来ます。
- だんさがない**  
ポートラムの入り口の高さとのり場の高さが同じなので、車イスの人やベビーカーをおす人でもかんたんにのることができます。
- 7色の車体**  
ポートラムの車体の色は7色あり、それぞれにネコのキャラクターもいます。

**〇×クイズにちようせん!**

**クイズ 1** ポートラムにのったときのうんちんは、「パスカ」というカードではらうことができます?

こたえ

**クイズ 2** ポートラムは、夜走らないときは富山えきにいる?

こたえ

富山市交通政策課

A3 中面

## ②評価

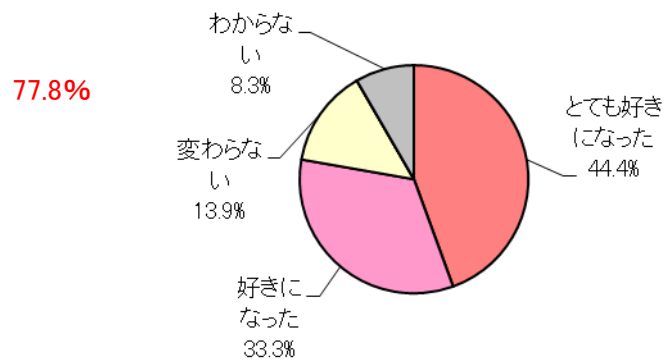
### i) 児童への意識変化アンケート結果

学習プログラム実施後、全児童に対してアンケートを実施した。以下の全学習ステップにおいて、約8割の児童が「とても好きになった・とても思う」、「好きになった・思う」と回答しており、学習効果が見られた。

#### 学習ステップ1：公共交通を好きになる

問1. 授業をうけて、バス、電車、ポートラムやセントラムを好きになりましたか？(N=36)

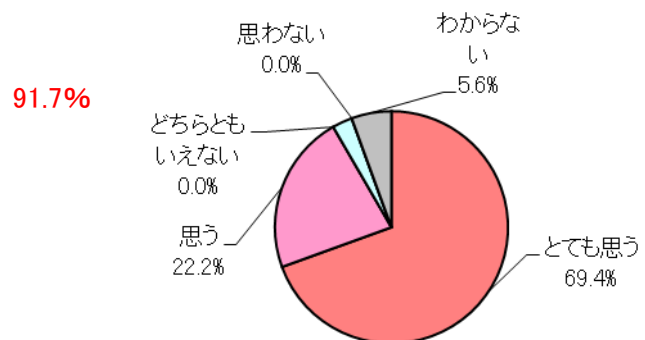
項目	件数	割合
とても好きになった	16	44.4%
好きになった	12	33.3%
変わらない	5	13.9%
きれいになった	0	0.0%
すごくきれいになった	0	0.0%
わからない	3	8.3%
合計	36	100.0%



#### 学習ステップ2：公共交通を利用したいと思う

問2. 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムに乗りたいと思いましたか？(N=36)

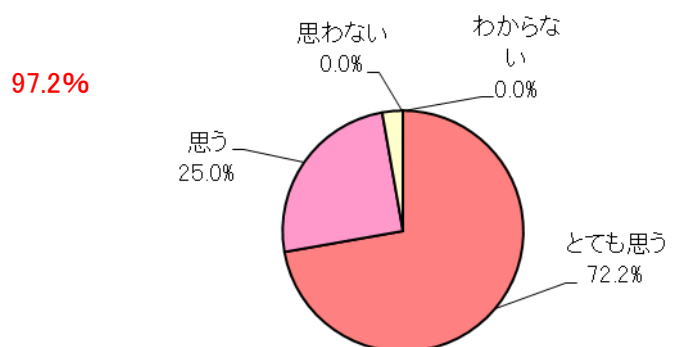
項目	件数	割合
とても思う	25	69.4%
思う	8	22.2%
どちらともいえない	0	0.0%
あまり思わない	1	2.8%
思わない	0	0.0%
わからない	2	5.6%
合計	36	100.0%



#### 学習ステップ3：環境や社会のことを考え、公共交通の大切さを理解する

問3. 授業をうけて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、大切だと思いませんか？(N=36)

項目	件数	割合
とても思う	26	72.2%
思う	9	25.0%
どちらともいえない	1	2.8%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	0	0.0%
わからない	0	0.0%
合計	36	100.0%





## ii) 検討部会でのご意見

- ・授業時間は、1時限で良いのではないか。
- ・まず生活体験の共有を行い、そこからいろいろな乗り物すなわち公共交通があるということ、公共交通は高齢者などの車を運転できない人達も乗ることができる乗り物である（福祉面）ということを知り、その一例としてポートラムを取り上げて知識をつけるという流れとしてはどうか。
- ・3年生は社会科初習の年である。そのため、3年生の5月時点では理解することが難しい部分がある。授業の実施時期を7月頃にすれば児童が本プログラムの内容をより理解できる可能性がある。

## ③完成版

※資料編参照

## (2) 社会科 4年生の学習プログラム

### ①実施結果

#### i) 実施概要

実 施 日：平成25年10月29日（火）1時限

実 施 場 所：八尾小学校

実 施 者：古井涼子 教諭

対象校・学年：八尾小学校4年生1クラス

学習プログラム：富山県の広がり

#### ii) 学習プログラム内容

プログラム名	富山県の広がり
学習のねらい	・ 校外学習を行う設定で、富山市から高岡市への移動方法を考えるなかで富山県の交通網について学習する。
時限数	・ 9時限
学習内容	・ 高岡市へ校外学習に行くという設定で、富山市から高岡市への移動方法を考える。 ・ 富山県の位置を理解し、富山県内の市の名称や土地利用の様子、交通の様子を学習する。その後、富山市から高岡市へ移動するための交通手段や経路を考え、児童が自分達で郊外学習の計画を立てる。

#### iii) 授業風景



iv) 児童用パンフレット

## 富山県の交通の様子

### 交通とは?

「人」や「もの」を運ぶための大切な働きです。

公共交通とは?  
交通のうち「電車」や「バス」など、  
だれでも利用できる乗り物のことをいいます。

環境に優しい公共交通(バスや電車)

1人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の量

交通手段	排出量 (g-CO <sub>2</sub> e /人・km)
自動車	169
バス	49
徒歩	18

バス(バス専用車線付) | パンク(バス専用車線付) | 普通自動車

### 公共交通(電車)を利用する人

JR富山本線を利用する人(平日)

利用区間	割合
70区間以上	5%
60区間	10%
50区間	20%
40区間	27%
30区間	9%
20区間	11%
10区間	15%
10区間以下	1%

公共交通の利用者数

交通手段	利用者数 (千人)
JR	1,111
私鉄	1,111
市街地バス	1,111
路線バス	1,111
コミュニティバス	1,111
タクシー	1,111
自転車	1,111
徒歩	1,111

富山県の主要な交通ルート

A3 外面

### 富山県内の主要な交通

富山県内の主要な交通ルート

### 富山県内主要な交通の概要

富山県内主要な交通の概要

富山県内主要な交通の概要

富山県内の主要な交通ルート

A3 中面

## ②評価

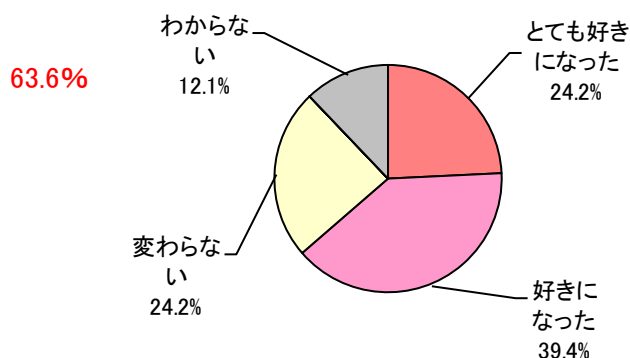
### i) 児童の意識変化アンケート結果

学習プログラム実施後、全児童に対してアンケートを実施した。以下の学習ステップにおいて、学習ステップ1を除いて8割以上の児童が「とても好きになった・とても思う」、「好きになった・思う」と回答しており、学習効果が見られた。

#### 学習ステップ1：公共交通を好きになる

問1. 授業をうけて、バス、電車、ポートラムやセントラムを好きになりましたか？(N=33)

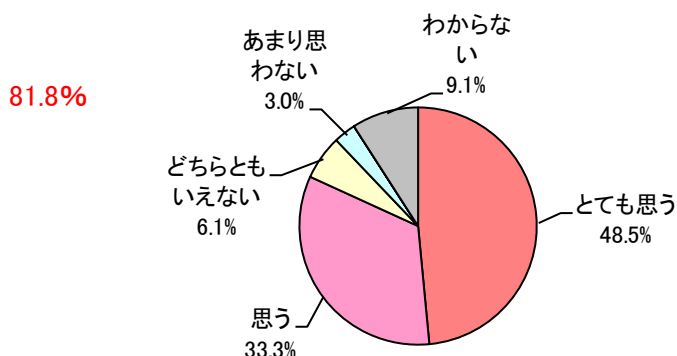
項目	件数	割合
とても好きになった	8	24.2%
好きになった	13	39.4%
変わらない	8	24.2%
きれいになった	0	0.0%
すごくきれいになった	0	0.0%
わからない	4	12.1%
合計	33	100.0%



#### 学習ステップ2：公共交通を利用したいと思う

問2. 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムに乗りたいと思いましたか？(N=33)

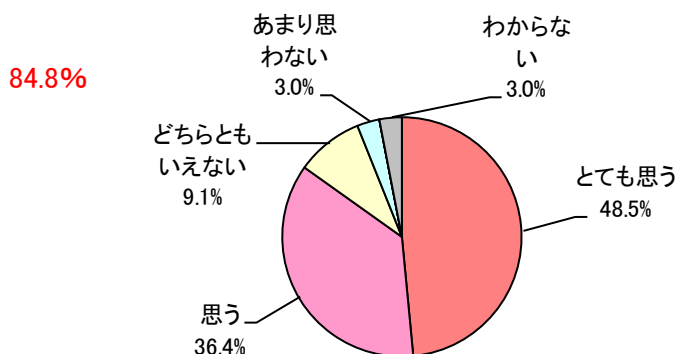
項目	件数	割合
とても思う	16	48.5%
思う	11	33.3%
どちらともいえない	2	6.1%
あまり思わない	1	3.0%
思わない	0	0.0%
わからない	3	9.1%
合計	33	100.0%



#### 学習ステップ3：環境や社会のことを考え、公共交通の大切さを理解する

問3. 授業をうけて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、大切だと思いませんか？(N=33)

項目	件数	割合
とても思う	16	48.5%
思う	12	36.4%
どちらともいえない	3	9.1%
あまり思わない	1	3.0%
思わない	0	0.0%
わからない	1	3.0%
合計	33	100.0%



## ii) 検討部会でのご意見

- ・モビリティ・マネジメント教育の内容を校外学習に組み込んで考えるのは面白い。
- ・校外学習に行くために交通手段を考えるという流れは必然性が感じられる。ただし、マイカーが交通手段の選択肢に入らないのが気になる。また、いろいろと検討した結果、結局は貸切バスになってしまうと児童はしらけてしまう。
- ・多くの小学校での実施を考えた場合、平成24年度に実施した内容の方が適しているのではないか。平成24年度実施の学習プログラムに微修正を加えて最終版とし、平成25年度実施の内容は、実践事例としてホームページに掲載する程度にすると良い。

## ③完成版

※資料編参照

### (3) 社会科 6年生の学習プログラム

#### ①実施結果

##### i) 実施概要

実 施 日：平成25年12月2日（月）1時限

実 施 場 所：五福小学校

実 施 者：中山美香 教諭

対 象 校・学 年：五福小学校6年生1クラス

学習プログラム：富山市の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～

##### ii) 学習プログラム内容

プログラム名	富山市の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～
学習のねらい	・ライトレールを使った富山市の新しいまちづくりについて関心をもって調べ、これからの富山市について自分なりの考えをもつ。
時限数	・3時限
学習内容	・ライトレールが住民の願いによってつくられたことを知る。そのようにしてつくられたライトレールと富山港線の利用者数を比べ、ライトレールがつけられたことで利用者数が増えた理由を考える。その後、ライトレールを活用した富山市の新しいまちづくりについて知り、自分なりの考えをもつ。

##### iii) 授業風景





iv) 児童用パンフレット



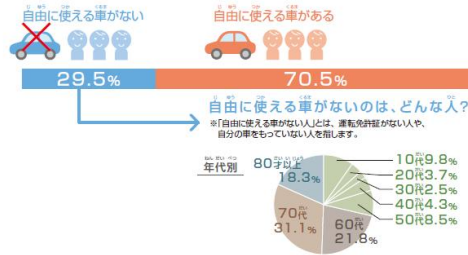
A4 1ページ目



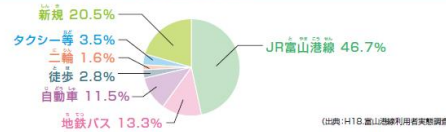
A3 2ページ目

# 富山市の目指す 新しいまちづくりについて考えよう

## 自由に使えない車がない人の割合 (出典:平成18年富山市の公共交通に関する意識調査)



## 富山ライトレール利用者の以前の交通手段 (出典:H18 富山ライトレール利用者実態調査)

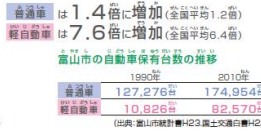


## 世帯あたりの自家用車保有台数 (出典:自動車検査登録情報協会[平成23年3月末現在])

1.72(台)  
1世帯あたり

全国第2位  
富山県

## 自家用車保有台数の増加 (出典:富山市統計書#23-国土交通局#22)



A4 3ページ目

# 富山市の「くしとだんごのまちづくり」

富山市は住む所や買い物をする所がいろいろある場所にちらばっているため、車がないと移動するのが不便です。そこで富山市では、家や店などが集まる場所(おだんご)を公共交通(くし)でつなぐ「くしとだんごのまちづくり」に取り組んでいます。ちらばったまちを集中した場所(おだんご)に変えて、公共交通を使う人を増やし、公共交通(くし)を使いやすくすることで、車を使わなくても移動できるようにしたいと考えています。



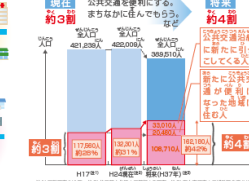
いくつものおだんごがくしによってつながっています。



## 富山市が自由しているまち



## 公共交通の便利な地域に住む人を増やす



富山市交通政策課 東福光晴さんのお話

公共交通を便利にすると、高齢者や体の不自由な人など車が使えない人でも、気軽に移動ができるようになります。また、車の代わりに公共交通を利用すると二酸化炭素の排出量が削減されます。富山市は、「くしとだんごのまちづくり」に取り組むことで、人と環境に優しいまちを自覚しています。

富山市交通政策課

A3 4ページ目



## ②評価

### ○検討部会でのご意見

- ・教科書のライトレールに関する記述は、いずれなくなる可能性がある。教科書に頼らない授業構成にすると良いのではないか。
- ・富山港線の存続については、反対派もいたと考えられる。富山港線存続の経緯については、あまり具体的に扱わず、住民の願いが実現したという事実のみ扱えば良いのではないか。
- ・2時限目は、住民の願いがかなった結果、具体的に自動車を使えない人達にどのようなメリットが起こったのかを確かめる時間にすれば良いのではないか。
- ・「住民の願い」と「富山市の施策の意図」は別である。富山市の施策の意図は、児童に予想させるのではなく、授業のなかで提示する方が良いだろう。
- ・バスに乗らなくても生活できるため、バスに乗らないという選択が将来の不便につながるということを見事に理解させることは難しいだろう。

## ③完成版

※資料編参照

#### (4) 総合 3～4年生の学習プログラム

##### ①実施結果

###### i) 実施概要

実施日：平成25年10月9日（水）1時限

実施場所：東部小学校

実施者：光里 誠 教諭

対象校・学年：東部小学校4年生1クラス

学習プログラム：「おでかけ定期券」って何だろう？

###### ii) 学習プログラム内容

プログラム名	「おでかけ定期券」って何だろう？
学習のねらい	・富山市が発行している「おでかけ定期券」の目的を調べる活動を通じて、バス交通が高齢者にも使いやすく整備されていることに気づく。
時限数	・2時限
学習内容	・富山市が65歳以上の高齢者向けに発行している「おでかけ定期券」を取り上げ、そのサービスや目的について調べる。富山市のバス交通が高齢者にも使いやすく整備されているという福祉的な目的に気づき、中心市街地に人が集まることで、交通機関や中心市街地がにぎわうという交通政策の考え方にふれる。

###### iii) 授業風景



iv) 児童用パンフレット

### おでかけ定期券は、こんなところでも使えます。

**富山ライトレール**  
富山ライトレール(ポートルムとフィーダーバス)は、どの駅、バス停で乗りおいても、1回それぞれ100円で利用できます。

**路面電車**  
市内電車は、どの電停で乗りおいても、1回100円で利用できます。

**地鐵電車**  
富山地方鉄道本線、立山線、不二越、上涌線の市内にある駅と、富山富山駅、富山駅の各区域を1回100円で利用できます。

**富山交通政策課 東福光晴さんのお話**  
おでかけ定期券は、高齢者の方が自分で気軽に、行きたい所に出かけられることを助け、いつまでも元気でいてほしいと願って作られた券です。また、バスや電車に乗って、中心市街地に多くの人に来てもらうことで、交通機関や中心市街地がにぎわい、元気になります。

富山交通政策課

## おでかけ定期券って何だろう?

「おでかけ定期券」は、富山市に住んでいる65歳以上の人たちが、市内のいろいろな場所から中心市街地に行くときに、100円でバスや電車に乗れる定期券です。

**利用できる人**  
富山市内に住む65歳以上の人

**利用できる交通機関**  
地鉄路線バス・地鐵電車・市内電車・富山ライトレール(ポートルム、フィーダーバス)・まいどはやバス

**利用になる時間帯**  
9時～17時(おりの時間)

**路線バス**  
富山市内の全ての路線バスで、中心市街地と市民病院へのお出かけが富山市内のどのバス停からでも1回100円で利用できます。

65歳からおとくだね!

A3 外面

## 何のために、「おでかけ定期券」があるの?

自由に使えない人は、どれくらいいるの? (出典:平成18年富山市の公共交通に関する調査結果)

自由に使えない 29.5%  
自由に使えない人がいる 70.5%

自由に使えないのは、どんな人?  
60歳以上 18.3%  
70～79歳 31.1%  
60～69歳 21.8%  
10～19歳 9.8%  
20～29歳 3.7%  
30～39歳 2.5%  
40～49歳 4.3%  
50～59歳 8.5%

60歳以上の人が多いんだ

自由に使えない人は、どうやって出かけるの? (出典:平成18年富山市の公共交通に関する調査結果)

月～金曜日 (%)

乗合バス	33.7%
路線バス	20.1%
市内電車	12.8%
バス	38.8%
タクシー	10.1%
自転車	39.2%
徒歩	28.9%
その他	9.4%

バスや自転車を乗る人が多いだね

「おでかけ定期券」を使って、どこまでお出かけできるの?

富山市内のバス路線  
中心市街地 ● おもなバス停

どのバス停に乗っても、中心市街地や富山市民病院まで100円なんだよ

広いはいいで、使えるんだね

「おでかけ定期券」を使っている人は、どう思っているの?

わしの家は、中心市街地から遠いんだけど、中心市街地まで100円で行って大助かりや。

バスや電車などいろいろな交通機関で乗れるから、出かけたかったときに、気軽に行って便利だわ。

「おでかけ定期券」を持つようになってから、出かける回数が増えて、楽しみがふえたわ。そしたら、元気が出てきて、家族に「わかった」って言われるのよ。

A3 中面

## ②評価

### ○検討部会でのご意見

- ・バスの利便性については、1時限目ではなく2時限目で取り扱うと良いだろう。
- ・児童にとって中心市街地は身近ではない。社会科3年生で既習になっているが、なぜ中心市街地に人を呼びたいかなどを改めて学習する必要があるだろう。
- ・くしとだんごのまちづくりについては、モビリティ・マネジメント教育の柱であるため、強調してはどうか。くしとだんごのまちづくりについての理解がされていなければ、バスの利用促進についての理解は深まらないだろう。
- ・児童にとって、富山市のまちづくりについて知ることは非常に興味深く感じられるだろう。
- ・1時限目は福祉とまちづくりをテーマとし、2時限目に公共交通活性化をテーマとすれば良いのではないか。
- ・時限数は2時限のままで良いと感じる。

## ③完成版

※資料編参照

## (5) 総合 5～6年生の学習プログラム

### ①実施結果

#### i) 実施概要

実施日：平成25年11月12日（火）1時限

実施場所：呉羽小学校

実施者：堀 泰洋 教諭

対象校・学年：呉羽小学校6年生1クラス

学習プログラム：環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう！

#### ii) 学習プログラム内容

プログラム名	環境にやさしい交通手段の使い方を考えよう！
学習のねらい	・公共交通の環境に与える影響を考え、自分たちの交通機関の使い方と、富山市が進めている環境にやさしいまちづくりとを関連させながら、これからの交通機関の利用についての気づきを深める。
時限数	・2時限
学習内容	・地球温暖化と児童の生活との関連を知り、富山市における地球温暖化の影響を確かめる。富山市全体や各家庭が出している二酸化炭素量、クルマの利用を控えることで減らせる二酸化炭素量について調べる。クルマから排出される二酸化炭素量を減らすためにできることを考え、自分達の家庭で取り組みそうな内容を考える。 ・考えた二酸化炭素量を減らす方法について児童が家族に取材し取材結果からわかることを話し合う。そのうえで、富山市が取り組んでいる環境にやさしいまちづくりについて知る。

#### iii) 授業風景

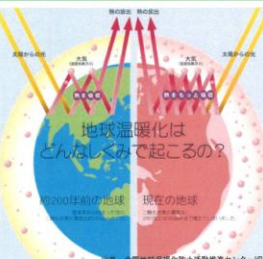




iv) 児童用パンフレット

かんきょう 環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう！

★地球温暖化を知っている？




地球温暖化とは地球の表面気温が上昇して気候が変わってしまう現象をいいます。地球温暖化が進むと気候が変わり、農業生産への影響がでたり、海面が上昇して、小さな島が沈んでしまったりするなどの悪影響が考えられています。

地球温暖化はどんなしくみで起こるの？

1990年頃の地球 現在の地球

出典：気候庁「地球温暖化防止活動推進センター」

★富山市で起こった、地球温暖化がもたらしたと考えられている現象



富山市で起こったゲリラ豪雨 富山市災害等報 H22.6.31  
この日は15時から17時までの2時間に100ミリにせまるはげしい雨が降り、50件を超える家に雨水が流れ込みました。この大雨は「ゲリラ豪雨」とも呼ばれ、地球温暖化による影響が大きいと考えられています。

イノシシに食らされた田んぼ 富山市道 田20.8.5  
イノシシは、雪が多く積もる富山では、あまり生息していませんでした。積雪が少ないここ10年間でイノシシが増え始め、近年では1000万円を超える被害が出る年もあります。

★ここで、地球温暖化について考えたことをまとめてみよう

★富山市が出しているCO<sub>2</sub>はどうなっているの？

富山市のCO<sub>2</sub>排出量の変化

1990年

合計 344.9万t

その内 70%

→

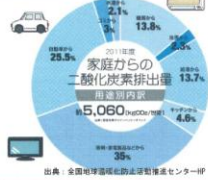
2005年

合計 399.2万t

その内 80%

出典：「富山市環境モデル都市行動計画」

★各家庭が出す温室効果ガスにはどんなものがあるの？



2011年度 家庭からの二酸化炭素排出量 15,080tCO<sub>2</sub>相当量


用途別内訳

出典：全国地球温暖化防止活動推進センター

★ここで、地球温暖化について考えたことをまとめてみよう

★車を使わないと、排出されるCO<sub>2</sub>がどのくらい減るの？

色々なエコ行動を1年間続けた場合に、減らすことができるCO<sub>2</sub>の量



出典：とやまライフプロジェクト

★ここで、地球温暖化について考えたことをまとめてみよう

★ここで、地球温暖化について考えたことをまとめてみよう

★ここで、地球温暖化について考えたことをまとめてみよう

A3 外面

かんきょう 環境にやさしい交通機関って？

★ひとりを1km運ぶために排出される二酸化炭素の量

自動車

170g

バス

51g

鉄道

21g


自転車・徒歩

0g!

出典：国土交通省


★富山市が進める、環境にやさしい交通機関への取り組み

ポータラム




ポータラムはLRV（次世代電動電車）と呼ばれ、CO<sub>2</sub>をほとんど出さない、環境にやさしい乗り物です。現在、岩瀬線～富山駅北間で運行されていますが、今後、セントラムや市内電車、さらには正富線への乗り入れを行う予定25.3kmのLRT（次世代電動電車システム）ネットワークを作ることが目指されています。

電気バス



2010年2月に富山市で全国初の路線バスに小型電気バスを導入テストが行われました。通常のディーゼルエンジンバス（大型）に比べ、電気バス（小型）による二酸化炭素排出量は約3分の1となります。


アヴィレ




アヴィレは、いつでもどこでも自転車を利用できるサービスです。車によるCO<sub>2</sub>を大幅に減らすための取り組みの1つとして、市中心街に導入されました。現在15ヶ所のステーションと150台の自転車が設置され、24時間好きなステーションで借りて、好きなステーションへ返却できます。

★富山市の「くしとだんごのまちづくり」

富山市は住む所や買い物をする所がいろいろな場所にちらばっているため、車がないと移動するのが不便です。そこで富山市では、家や店などが集まる場所（おだんご）を公共交通（くし）でつなぐ「くしとだんごのまちづくり」に取り組みしています。ちらばったまちをまとめた場所（おだんご）に集って、公共交通を使う人を増やし、公共交通（くし）を使いやすくすることで、車を使わなくても移動できるようにしたいと考えています。



★富山市交通政策課 東福光晴さんのお話



富山に住んでいる人は多くはクルマをもっています。たしかにクルマがないと買物や病院などへの移動に不便を感じるかもしれません。だからといって、みんながクルマばかりを長くとると、交通渋滞や、地球温暖化など、困ったことができます。そこで富山市は、公共交通をより快適に、使いやすくすることで、「人と環境にやさしいまち」を自由しています。環境にやさしい交通機関の使い方について、ぜひ考えてみてください。

富山市交通政策課

A3 中面

27

## ②評価

### i) 児童の意識変化アンケート結果

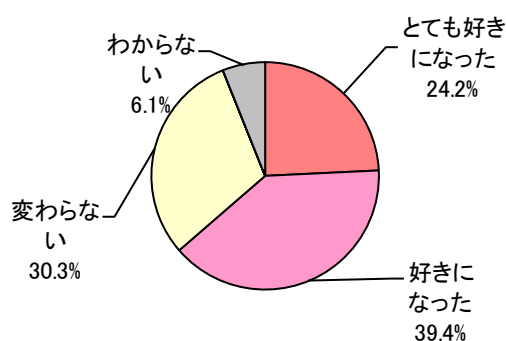
学習プログラム実施後、全児童に対してアンケートを実施した。以下の学習ステップにおいて、学習ステップ1を除いて7割以上の児童が「とても好きになった・とても思う」、「好きになった・思う」と回答しており、学習効果が見られた。

#### 学習ステップ1：公共交通を好きになる

問1. 授業をうけて、バス、電車、ポートラムやセントラムを好きになりましたか？(N=33)

項目	件数	割合
とても好きになった	8	24.2%
好きになった	13	39.4%
変わらない	10	30.3%
きれいになった	0	0.0%
すごくきれいになった	0	0.0%
わからない	2	6.1%
合計	33	100.0%

63.6%

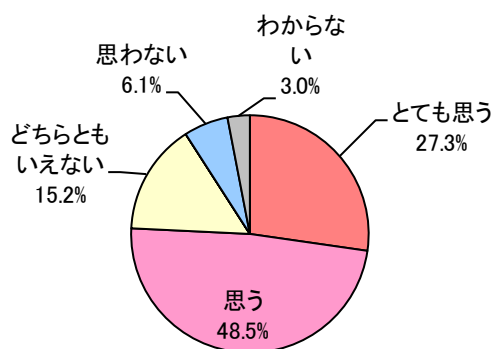


#### 学習ステップ2：公共交通を利用したいと思う

問2. 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムに乗りたいと思いませんか？(N=33)

項目	件数	割合
とても思う	9	27.3%
思う	16	48.5%
どちらともいえない	5	15.2%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	2	6.1%
わからない	1	3.0%
合計	33	100.0%

75.8%

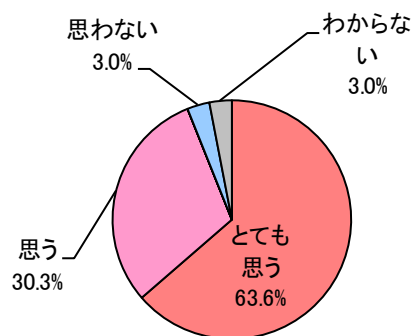


#### 学習ステップ3：環境や社会のことを考え、公共交通の大切さを理解する

問3. 授業をうけて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、大切だと思いませんか？(N=33)

項目	件数	割合
とても思う	21	63.6%
思う	10	30.3%
どちらともいえない	0	0.0%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	1	3.0%
わからない	1	3.0%
合計	33	100.0%

93.9%



## ii) 検討部会でのご意見

- ・今回の授業では、「地球温暖化を防ぐためには自家用車の利用を控える」という結論に向けて既に道筋が決まっており、児童が自ら考えられる部分が少ないように感じた。
- ・資料で取り上げられている地球温暖化の事例を児童は身近に感じることができていない。二酸化炭素量の話においても、何万トンという数字の意味はわかるが、それが自分達の生活に与える影響までは感じられていない。
- ・環境の知識を身につけることではなく、環境について児童が課題を追究することが重要である。アヴィレを入口として、富山市の施策について自分で考える構成にすることが考えられる。
- ・二酸化炭素量削減の必要性が児童も理解している。削減のためにできることを考える際、1日10分クルマを控えることによる二酸化炭素量の削減効果を強調すると良いだろう。

## ③完成版

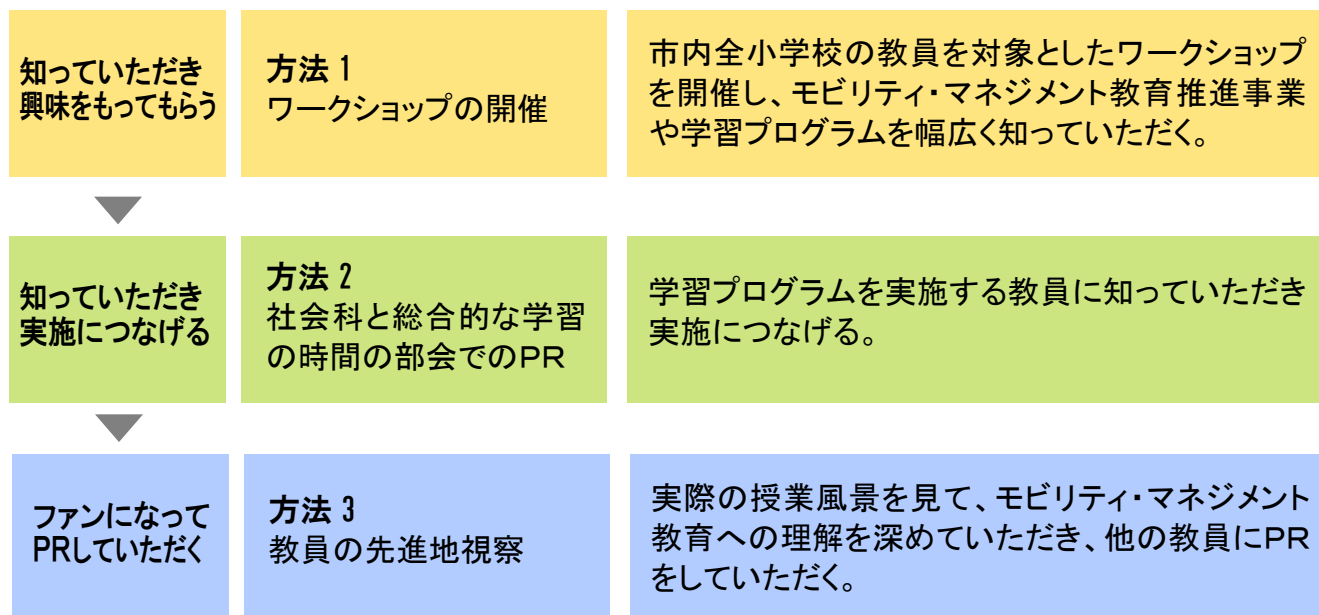
※資料編参照



## 第4章 教員に対する学習プログラムの普及啓発

### 4-1 普及啓発の方法

富山市モビリティ・マネジメント教育学習プログラムを市内全域で継続的に実施するために、さまざまな方法で教員に事業をPRする。以下の3つの方法で普及啓発に取り組んだ。



普及啓発の3つの方法

## 4-2 実施結果

### (1) ワークショップの開催

#### ①公開授業の開催に合わせたワークショップの開催

公開授業に合わせてワークショップを開催し、検討部会のメンバーである教員に加え、公開授業が実施された学年と同じ学年を受け持つ社会科部会や総合的な学習の時間部会の教員数名が参加した。

開催日時	開催場所	参加者数	公開授業
平成 25 年 5 月 22 日 (水)	五福小学校	17 名	社会科 3 年生
平成 25 年 10 月 9 日 (水)	東部小学校	13 名	総合 3~4 年生
平成 25 年 10 月 29 日 (火)	八尾小学校	11 名	社会科 4 年生
平成 25 年 11 月 12 日 (火)	呉羽小学校	12 名	総合 5~6 年生
平成 25 年 12 月 2 日 (月)	五福小学校	13 名	社会科 6 年生



平成 25 年 5 月 22 日(水)



平成 25 年 10 月 9 日(水)



平成 25 年 10 月 29 日(火)



平成 25 年 11 月 12 日(火)



平成 25 年 12 月 2 日(月)

## ②市内全小学校教員を対象としたワークショップの開催

堀川小学校で持続発展教育（ESD）の実践発表会が行われ、富山市モビリティ・マネジメント教育に関する公開授業や研究協議会が開催された。研究協議会において、富山市モビリティ・マネジメント教育に関する取り組み紹介等を行った。

1 日時：平成25年11月1日（金）13:10～16:40

2 日程

12:40	13:10	13:50	14:15	15:00	15:15	16:35	16:40
受付 12:40～13:00 【正面玄関】 【4年玄関】	児童集会 【体育館】	移動・休憩	公開授業 【各会場】	移動・休憩	研究協議会 指導助言 【各会場】		校長挨拶

3 内容

### (1) 児童集会 (13:10～13:50)

児童集会のテーマ	会場
みんなの力を合わせよう	体育館

○ 児童集会のねらい

各委員会やお世話してくださっている方の仕事を知ることにより、これまでの自分の取り組みを振り返り、くらしをよりよくするために力を合わせることができる。

### (2) 公開授業 (14:15～15:00)

部会	教育課程	学年	授業者	単元名	授業会場
1	総合的な学習の時間	4年	政二 亮介	富山市の公共交通	(中央棟3階) 図書室
2	総合的な学習の時間	6年	柴山 秀範	ユネスコスクール － わたしができること －	(中央棟4階) 視聴覚室

### (3) 研究協議会 (15:15～16:35)

部会	司会者	指導助言者	協議会場
1	滑川市立寺家小学校 教頭 広田 積芳 先生	富山大学人文学部 准教授 大西 宏治 先生	(中央棟3階) 図書室
	協議題 仲間の考えを契機に自分と公共交通とのかかわりを顕在化させる過程で、自分にとっての公共交通の見方や考え方をどのようにみつめることができたか。		
2	富山市立古里小学校 教頭 荒田 修一 先生	富山大学人間発達科学部 教授 松本 謙一 先生	(中央棟4階) 視聴覚室
	協議題 よりよい未来に向かって、身近なことから自分ができることを聞き合うことを通して、ユネスコスクールの一員として大切にしていきたいことをどのようにみつめることができたか。		

# 1) 公開授業

## 総合的な学習の時間（4年） 単元名 富山市の公共交通

### (1) 単元の趣旨

富山市の公共交通機関の種類や交通網の様子から、既習の知識や経験をもとにしながら気になることを、調査・見学したり、資料の活用をして調べたりする中で、自分や社会における問題を見だし、解決に向けて取り組んでいくことで、富山市の公共交通の役割や在り方を考えていく。

また、仲間の考えや様々な立場の思いや願いから、今後の富山市の公共交通とまちづくりとの関係についても理解を深めていく。その過程で、環境や社会、経済などの側面から富山市の目指す新たなまちづくりへのかかわり方や自分のくらしの中で利用する交通手段を見直すなど、地域社会の一員としての態度が養われていくと考える。

### (2) 総合的な学習の時間の目標とESDで育てたい力との関連

		総合的な学習の時間の目標				
		追究の方途	自分自身		他者や社会	
		課題を設定し、自分の考えをもち、解決に向けて取り組む	これまでの自分自身の在り方	これからの自分自身の在り方	仲間や様々な立場の方とのかかわり	社会的事象の意味や関係
ESD で 育 て た い 力	ア	・ 公共交通の利用者や公共交通が走る地域の様子など関連付けながら、公共交通の役割について問題を発見し、考えていくことができる。	・ 公共交通と自分とのかかわりを想起し、その役割や意味を考えることができる。	・ 公共交通の役割や価値を見だし、今後の公共交通との付き合い方を考えることができる。	・ 仲間の考えや様々な立場の思いや願いから、公共交通の役割や価値を考えることができる。	・ 利用する年齢や職業、地域の様子の実態から公共交通の役割や価値を考えることができる。
	イ	・ 将来を見通し、社会問題や様々な立場の思いや願いから、富山市の公共交通の役割や目指すまちづくりとの関係を見いだすことができる。		・ 公共交通の充実に向けて、自分がどのようにかかわっていくかを具体的な方法で表現していくとする。		・ 公共交通と富山市のまちづくりとの関係を環境や社会、経済の側面から理解することができる。
	ウ	・ インタビューやアンケートをとるなど、課題解決に向けた対象や方法を選び、かかわっていくことができる。			・ 仲間や様々な立場の考えから多面的にとらえ、富山市の公共交通とまちづくりとの関係に対する見方・考え方を顕在化する。	
	エ	・ 公共交通とまちづくりとの関係について理解を深めることで、公共交通の役割や充実を考え、富山市のまちづくりに積極的にかかわったり、生かそうとしたりする。	・ 課題解決に向けての方法を粘り強く計画したり、実行したりしていくことができる。	・ 公共交通の役割や価値を理解し、自分の生活に合わせて交通手段を考えながら利用することができる。	・ 公共交通を利用する人々の年齢、職業、そのくらしぶりなどを理解し、様々な立場の人を考えながら、共に生活していくとする。	

## 2) 研究協議会

研究協議会では、参加した先生方から以下のようなご意見が出された。

- ・児童のモチベーションが高かった。自分の足で調べ活動を行い、自分の気持ちとして公共交通が大切であると感じていた。
- ・調べ活動として児童自身が問題意識を持ったことが重要である。児童の疑問に持った点を大切にしている。児童自身が気になる点は、児童の生活に関わりのある点である。調べ活動の方法は、どのような調べ方が良いかを児童と相談して決定した。市電近くに住んでいる児童は、市電に愛着を持っている。しかし、その児童は市電に乗車するという行動にまでは至っていなかった。(授業者)



公開授業



研究協議会

富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業について

1. モビリティ・マネジメント教育推進事業概要

(1) モビリティ・マネジメントとは

モビリティ・マネジメント(Mobility Management, 略称MM)とは、渋滞や環境、あるいは個人の健康等の問題に配慮して、道路に自動車で乗る車から公共交通や自転車などを『かましく』使う方向へと自発的に転換することを促す、一般の人々や様々な組織・地域を対象としたコミュニケーションを中心とした持続的な取り組みのことを意味する。具体的には、コミュニケーション施策を中心として、様々な運用施策、システムの導入や改善、それらの実施主体の組織の改編や新たな組織の創出などを実施しつつ、持続的に展開していく一連の取り組みを意味するもの。

日本モビリティ・マネジメント会議より

(2) モビリティ・マネジメント教育とは

私たち一人ひとりの移動手段や社会生活の交通を『人や社会、環境にやさしい』という観点から見直し、改善していくために自発的な行動を促されるような人間を育てることを目指した教育活動のこと。(＝交通環境学習)

モビリティ・マネジメント教育 教育宣伝検討委員会より

(3) モビリティ・マネジメント教育推進事業の目的

自動車依存が高い富山市では、生活に身近な公共交通が衰退を続けた結果、自動車による観光客・人々によって大渋滞らしい朝となっている。誰もが暮らしやすい街にするためには、環境や社会について意識を向け、クルマと公共交通をバランスよく利用できるように小学生という早い段階から意識醸成を図ることが効果的である。

このため富山市では、小学校3～6年生を対象に、交通と環境に関する意識の醸成を促すため富山版交通環境学習プログラムを確立し、学習を展開している。一昨年度から3ヵ年は、交通エコロジー・モビリティ財団の支援を受け検討を行い、平成26年度からの全市的な授業の実施を目指す。

平成24年度 富山市立五福小学校で開催された交通環境学習の様子

2. 学習プログラムの企画・実施について

市立の小学校教諭が主体となり、学習プログラムを確立。また、学校関係者、学識・有識者のご協力のもと、学習プログラムの確立に向けた模擬授業を企画・実施し、モビリティ・マネジメント教育の普及に取り組んでいる。

(1) 平成23年度の取り組み

- ① 「くしどんだこのまちづくり」(市職員、機計課情報研究)
- ② 「富山の交通とくらし～富山市のおでかけバスって知ってる?」(五ノ川大学 教授 寺本 環 氏)

(2) 平成24年度の取り組み

- ① 「くしどんだこのまちづくり」(富山市立五福小学校 藤井岳人 教諭)
- ② 「おでかけ定期券って何だろう?」(富山市立東部小学校 舟川宗吾 教諭)
- ③ 「富山の交通の様子」(富山市立遠東小学校 津崎和英 教諭)
- ④ 「富山の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～」(富山市立五福小学校 藤嶋広衛 教諭)

(3) 平成25年度の取り組み

- ① 「富山のいろいろなもの」(富山市立五福小学校 松村清重 教諭)
- ② 「おでかけ定期券って何だろう?」(富山市立東部小学校 荒見 誠 教諭)
- ③ 「富山の交通の様子」(富山市立遠東小学校 吉井涼子 教諭)
- ④ 「環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう」(11月12日(火)実施予定)
- ⑤ 「富山の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～」(12月2日(月)実施予定)

富山市教育センターと富山市のホームページに、使用した教材や指導案を掲載しています。

モビィ リティ

富山市教育センター  
「リンク集」→「学習に役立つ富山市の取組み」内  
ホームページアドレス [http://www.tym.ed.jp/c10/link/tr\\_link-sy07.html](http://www.tym.ed.jp/c10/link/tr_link-sy07.html)

富山市 「交通改善課からのご案内」→「モビリティ・マネジメント」  
ホームページアドレス [http://www.city.toyama.toyama.jp/teki/tekiibu/hotnews/inkaku/mobilitymanagement\\_8.html](http://www.city.toyama.toyama.jp/teki/tekiibu/hotnews/inkaku/mobilitymanagement_8.html)

お問い合わせ先 交通改善課 電話 443-2195

## 富山市モビリティ・マネジメント教育に関する取り組み紹介資料



## (2) 社会科と総合的な学習の時間の部会でのPR

### ①社会科部会

平成25年4月15日(月)の部会において、富山市モビリティ・マネジメント教育の実施内容等の説明を行った。

### ②総合的な学習の時間部会

平成25年5月13日(月)の部会において、検討部会メンバー渡辺純恵教諭による模擬授業の実施や意見交換を行った。




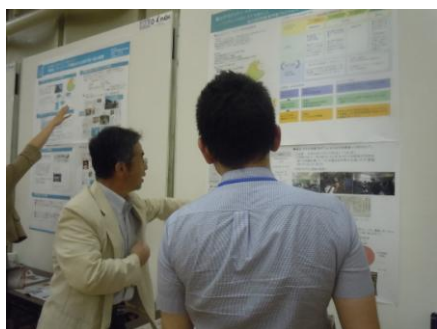
模擬授業



意見交換

## (3) 教員の先進地視察

### ①仙台市における日本モビリティ・マネジメント会議 (JCOMM)

視察者	柳内誠治(検討部会メンバー、富山市立五福小学校校長) 富山市職員2名 コンサルタント2名
実施日時	平成25年7月12日、13日
視察内容	<p>○口頭発表 日本各地でモビリティ・マネジメント事業に携わる関係者が自身の取組みについて発表を行った。</p> <p>○ポスター発表 富山市の取組みについてポスター発表を行い、柳内校長が見学者に対して説明を行った。</p>
	 

## ②金沢市立新神田小学校における金沢版交通環境学習

視察者	渡辺純恵(検討部会メンバー、富山市立東部小学校教諭) 富山市職員																																													
実施日時	平成 25 年 11 月 27 日(水)10:35~12:15																																													
実施学年	5 年生 1 クラス(37 名)																																													
授業実施者	教員 1 名 金沢市歩ける環境推進課職員 3 名 コンサルタント 2 名																																													
授業内容	<p>○1限目 金沢市の交通について、交通すごろく 金沢市におけるバスについてスライドを見た後、交通すごろくのゲームを通じて環境や社会に配慮したより良い交通手段の選択方法について考える。</p>  <p>○2 限目 交通と環境に関する学習 地球温暖化と交通の関係についてスライドを見た後、すごろくゲームで選択した交通手段による二酸化炭素排出量を計算させ、エコ活動として車の利用を控えることが効果的であることを考える。</p>  <table border="1" data-bbox="1125 1346 1353 1464"> <caption>自動車・バス・徒歩による二酸化炭素排出量計算表</caption> <thead> <tr> <th>乗客数</th> <th>乗車回数</th> <th>乗車距離</th> <th>乗車時間</th> <th>二酸化炭素排出量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乗客 1</td> <td>乗車回数 10</td> <td>乗車距離 2000</td> <td>乗車時間 2250</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乗客 2</td> <td>乗車回数 11</td> <td>乗車距離 2200</td> <td>乗車時間 2400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乗客 3</td> <td>乗車回数 11</td> <td>乗車距離 2200</td> <td>乗車時間 2400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乗客 4</td> <td>乗車回数 7</td> <td>乗車距離 1400</td> <td>乗車時間 1800</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乗客 5</td> <td>乗車回数 7</td> <td>乗車距離 1400</td> <td>乗車時間 1800</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乗客 6</td> <td>乗車回数 11</td> <td>乗車距離 2200</td> <td>乗車時間 2400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乗客 7</td> <td>乗車回数 7</td> <td>乗車距離 1400</td> <td>乗車時間 1800</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乗客 8</td> <td>乗車回数 3</td> <td>乗車距離 600</td> <td>乗車時間 1200</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	乗客数	乗車回数	乗車距離	乗車時間	二酸化炭素排出量	乗客 1	乗車回数 10	乗車距離 2000	乗車時間 2250		乗客 2	乗車回数 11	乗車距離 2200	乗車時間 2400		乗客 3	乗車回数 11	乗車距離 2200	乗車時間 2400		乗客 4	乗車回数 7	乗車距離 1400	乗車時間 1800		乗客 5	乗車回数 7	乗車距離 1400	乗車時間 1800		乗客 6	乗車回数 11	乗車距離 2200	乗車時間 2400		乗客 7	乗車回数 7	乗車距離 1400	乗車時間 1800		乗客 8	乗車回数 3	乗車距離 600	乗車時間 1200	
乗客数	乗車回数	乗車距離	乗車時間	二酸化炭素排出量																																										
乗客 1	乗車回数 10	乗車距離 2000	乗車時間 2250																																											
乗客 2	乗車回数 11	乗車距離 2200	乗車時間 2400																																											
乗客 3	乗車回数 11	乗車距離 2200	乗車時間 2400																																											
乗客 4	乗車回数 7	乗車距離 1400	乗車時間 1800																																											
乗客 5	乗車回数 7	乗車距離 1400	乗車時間 1800																																											
乗客 6	乗車回数 11	乗車距離 2200	乗車時間 2400																																											
乗客 7	乗車回数 7	乗車距離 1400	乗車時間 1800																																											
乗客 8	乗車回数 3	乗車距離 600	乗車時間 1200																																											

#### (4) その他

##### ①富山市教育委員会との連携

富山市教育委員会と協議を行い、「富山市学校教育指導方針」の持続発展教育（E S D）のページに富山市モビリティ・マネジメント教育に関する情報を掲載することで合意を得た。

##### ②校長会でのPR

平成24年度に引き続き、平成25年度も4月の校長会でのPRを実施した。当初、3月にも実施予定であったが、年度明けの4月の校長会でのPRに変更することとなった。

##### ③富山市教育センターホームページでの情報発信

富山市教育センターのホームページ上で、富山市モビリティ・マネジメント教育に関する説明や学習プログラムのパッケージ一式について情報発信を行った。



## 第5章 保護者を含めた市民への啓発活動

### (1) とやまレールライフ・プロジェクトとの連携

とやまレールライフ・プロジェクトと連携し、各種メディアを活用して富山市モビリティ・マネジメント教育に関する情報発信を行った。とやまレールライフ・プロジェクトのホームページや Facebook（フェイスブック）を活用して公開授業等の取り組み内容の発信を行った。

とやまレールライフプロジェクト  
TOYAMA RAIL LIFE PROJECT

プロジェクトの紹介

富山市交通環境学習の取組

富山市交通環境学習の取組紹介

富山市では、小学生たちが将来、クルマと公共交通のバランスの良い使い方ができるよう、富山市の公共交通と環境や福祉に関する「交通環境学習」を行っています。

小学校3年生～6年生を対象に学習プログラムを作成し、多くの児童たちに公共交通について考えてもらいました。

それぞれの授業について、詳しい内容は下記のリンクよりご覧下さい。

平成23年度の取り組み

11「くしとだんごのまちづくり」(社会・3年生)

12「富山の交通とくらし」～富山市のおでかけバスって知ってる？(社会・4年生)

### ホームページを活用した情報発信

facebook

とやまレールライフ・プロジェクト

2013年11月12日

11月1日に、富山市立堀川小学校の4年生を対象として「富山市の公共交通」についての授業が行われました。

ESD（持続発展教育）実践発表会において、公共交通を題材とした授業が行われ、児童の皆さんは公共交通について疑問に感じたことを調べながら学習に取り組み、成果を発表しました。

大人から子どもまで、みんなが公共交通を使いこなせるまちになるといいですね！

いいね！を取り消す・コメントする・シェア

18

とやまレールライフ・プロジェクト

2013年11月11日

Takt12月号にレールライフ実践人紹介掲載！

とやまレールライフ・プロジェクト

2013年11月21日

先月のことになりますが、10月29日に富山市立八尾小学校の4年生を対象として、「富山の広がり」についての授業を行いました。

富山市の名称、土地の様子、交通の様子を学習しながら、高岡市へ校外学習に行く場合にどのような経路で行きたいかを、児童の皆さんが様々な視点から考え、発表されていました。

皆さんは小学校4年生の頃、公共交通をどのように使っていましたか？私は電車大好きだったので、路線を全部覚えて運転席の真後ろで目を光らせていました^^

いいね！・コメントする・シェア

10

とやまレールライフ・プロジェクトさんがリンクをシェアしました。

### Facebook を活用した情報発信

## (2) まちなかの各種施設との連携

富山市民が公共交通を身近に感じ、普段のクルマの使い方を見直す機会となることを目指し、まちなかの各種施設や公共交通機関と連携して子どもと保護者を対象とした「とやま公共交通ふれあいデー」を開催した。

### ①チラシ

楽しく遊んで、楽しく学ぼう！

# とやま公共交通 ふれあいデー

平成25年 **9.29**日  
富山市民プラザ  
2階アトリウム  
10:00～16:30

入場無料

日頃、公共交通を利用する機会が少ない大人から子どもたちまで、「クルマ」と「公共交通」の正しい使い方について、楽しく遊んで、学びませんか？

ご家族で、気軽に  
ご参加ください

楽しく遊ぼう！

## バスや電車って すごい

キャラクターと遊ぼう  
**交通すごろく** 11:00～12:00  
13:00～14:00

セントラムとクルマを上手に選んで、ゴールを目指す交通すごろくに挑戦！かわいいキャラクターと一緒に、人や地球に優しい移動について考えてみよう！

## 中井精也氏による 講演会&ミニトーク

鉄道写真家 中井精也氏が鉄道写真の魅力をお話します。さらに、中井氏を交えてのミニトークも行います。 14:30～16:30

**講演** 「鉄道が生み出すゆるやかな風景」  
中井 精也 氏(鉄道写真家)

**ミニトーク** テーマ「公共交通の魅力再発見!!」

出席者 中井 精也 氏(鉄道写真家)  
稲田 祐治 氏(富山地方鉄道(株)専務取締役)  
京田 憲明 (同会:富山都市整備部長)

中井精也氏プロフィール  
1967年東京都杉並区生まれ。2000年に山崎友也氏と有限会社レイルマンフォトオフィスを設立、現在に至る。鉄道車両だけにこだわらず、鉄道に関わるすべてのものを被写体として独自の視点で鉄道を撮影。

## チャックパーク& 紙芝居朗読会

10:00～11:00  
12:00～13:00

かわいい動物たちとバスの紙芝居で、バスの魅力を見つけてみませんか？紙芝居の後は、人気のチャックパークで思いっきり遊ぼう！

## 参加者募集！ セントラム乗車&写真撮影会

鉄道写真家 中井精也氏と一緒にまちなかを走るセントラムの写真を撮ってみましょう。プロのアドバイスが受けられます！ 13:00～14:00

講師 中井 精也 氏  
対象 小学生とその保護者  
定員 10組20人程度  
(応募者が多数の場合は抽選となります)  
場所 富山国際会議場周辺  
カメラは持参してください。

申込方法 9月13日(金)(必着)までに、往復ハガキで、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号をご記入の上、富山県交通政策課(〒930-8510住所不要)へお申込みください。  
※ご提供いただいた情報は、本イベント以外には使用しません。

参加費  
無料

お問い合わせ先 **富山県交通政策課**  
TEL 443-2195 FAX 443-2190  
E-mail koutuseisaku@city.toyama.lg.jp

主筆/富山県 共筆/富山県モビリティ・マネジメント教育推進協議会  
後援/(公財)交通エコロジー・モビリティ財団、富山地方鉄道(株)、(株)まちづくりとやま

富山県では、「とやまレールライフプロジェクト」の一環として、「人や社会、地球にやさしい」といった観点から自発的に交通手段を選択する意識を育むため、「交通環境学習」を実施しています。



②実施風景



交通すごろく 1



交通すごろく 2



交通すごろく 3



チャックパーク



紙芝居朗読会 1



紙芝居朗読会 2



路面電車 100 周年記念展示  
・専門学芸員による解説



MM教育の取組展示



鉄道模型の展示



中井精也氏による講演会



ミニトーク 1



ミニトーク 2



セントラム乗車&写真撮影会 1



セントラム乗車&写真撮影会 2



セントラム乗車&写真撮影会 3

③新聞掲載記事

1) 9月30日(月) 北日本新聞



2) 9月30日(月) 富山新聞



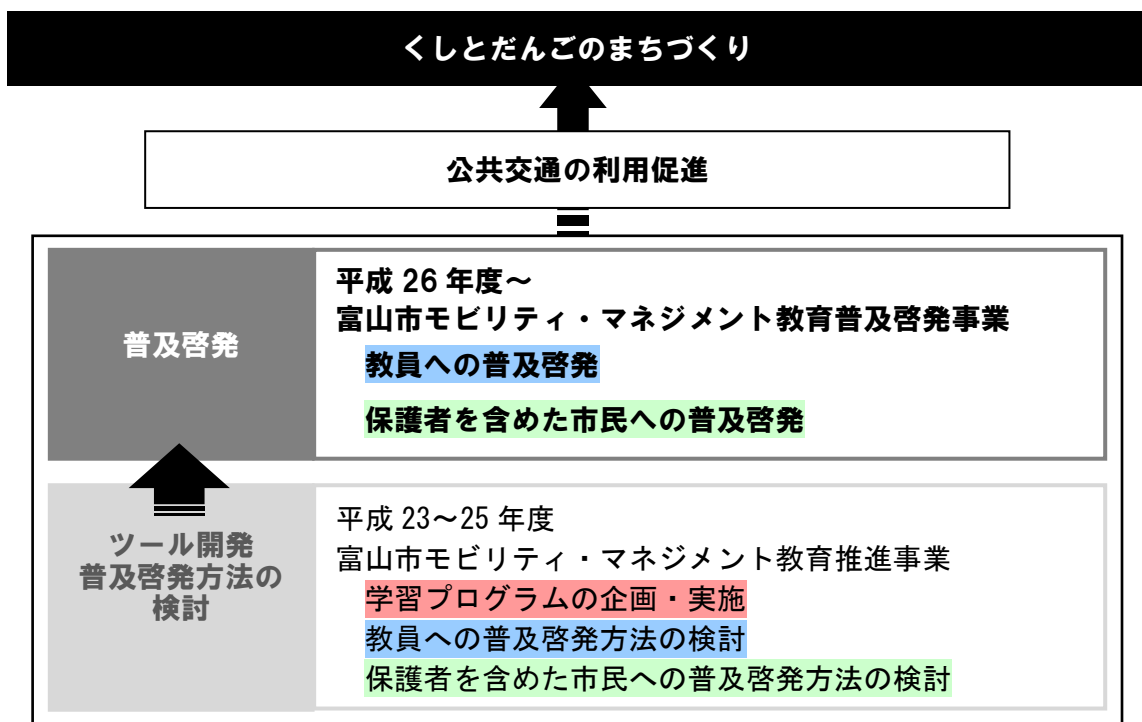
## 第6章 支援制度終了後の実施計画の検討

富山市モビリティ・マネジメント教育は、継続的に実施していくことが重要である。そのため、継続的に取り組むことができる仕組みを確立する。平成26年度以降は、「モビリティ・マネジメント教育普及啓発事業」として継続的な取り組みを行う。

### (1) モビリティ・マネジメント教育普及啓発事業の目的

小学校の段階から環境や社会について意識を向け、公共交通の利用について意識醸成を図ることを目的に、平成23～平成25年度の3ヶ年において「富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業」に取り組んできた。取り組みの成果として、富山市モビリティ・マネジメント教育を普及させるためのツールである学習プログラムの開発などが挙げられる。

平成26年度以降は、これまでの3ヶ年での取り組みをふまえ、富山市モビリティ・マネジメント教育の普及啓発を目的とした事業を行う。教員が親しみやすく感じるように、本教育の名称を「富山市のりもの語り教育」とし、児童が乗り物の魅力を語り、自発的に考えて乗り物をかしこく使い分けて生活できるようになることを目指す。

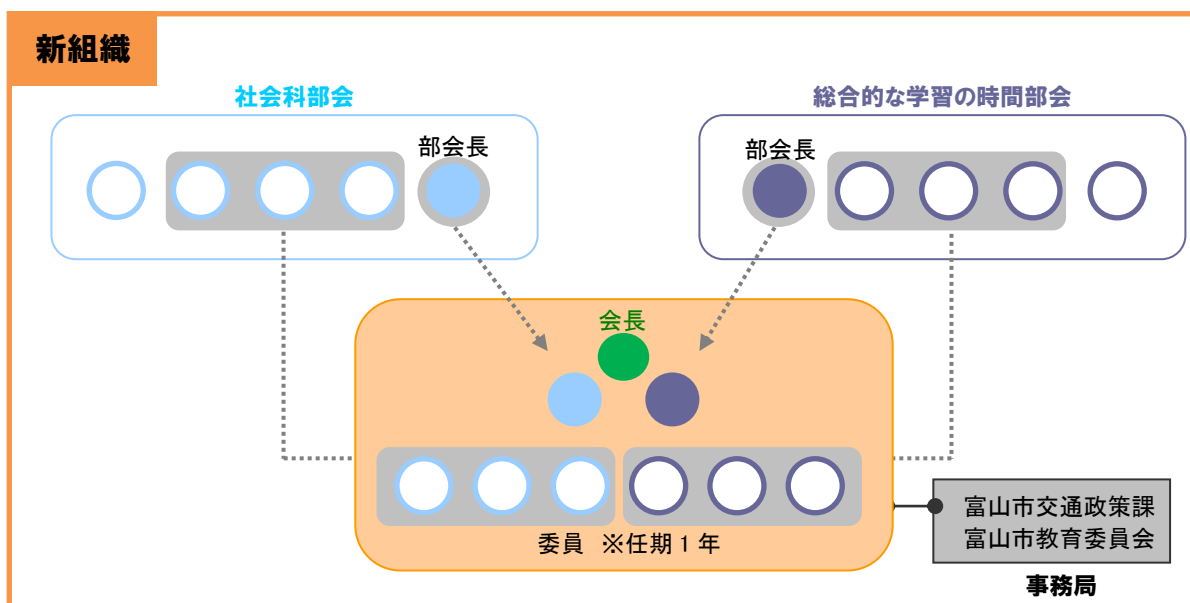
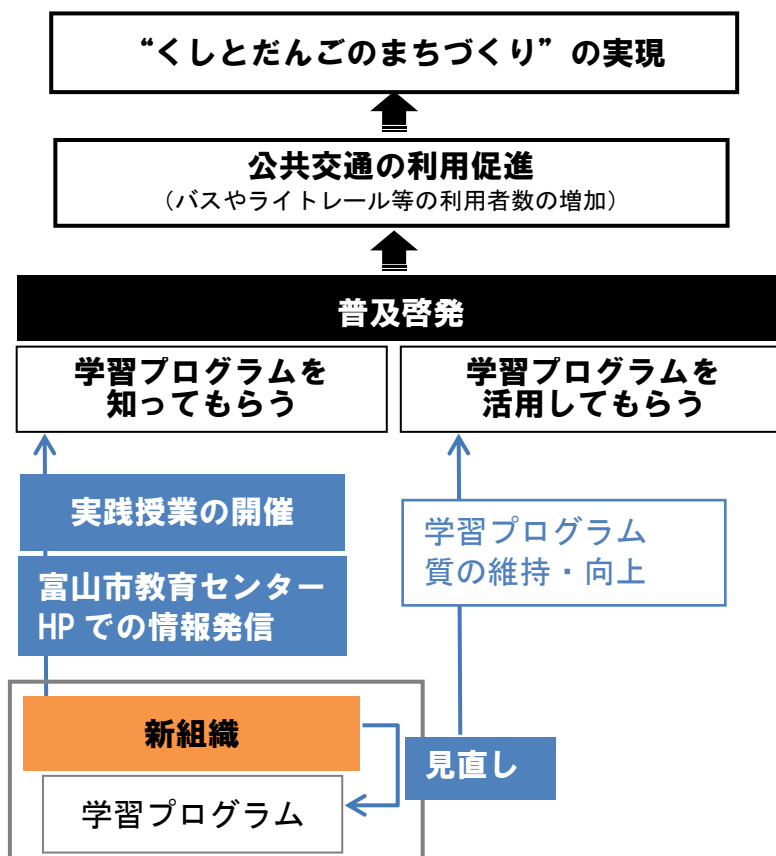




## (2) 普及啓発のための取り組み

### ①新組織の設立と役割

児童を対象とした教育は、長期に渡って継続的に取り組むことで大きな成果につながる。そのためには、継続的に普及啓発を行う必要がある。また、開発した学習プログラムの質の維持・向上に努めることも必要である。これらの役割を担う新組織を平成26年度に設立することで、「富山市のりもの語り教育」の普及啓発を行い、公共交通の利用促進を目指す。

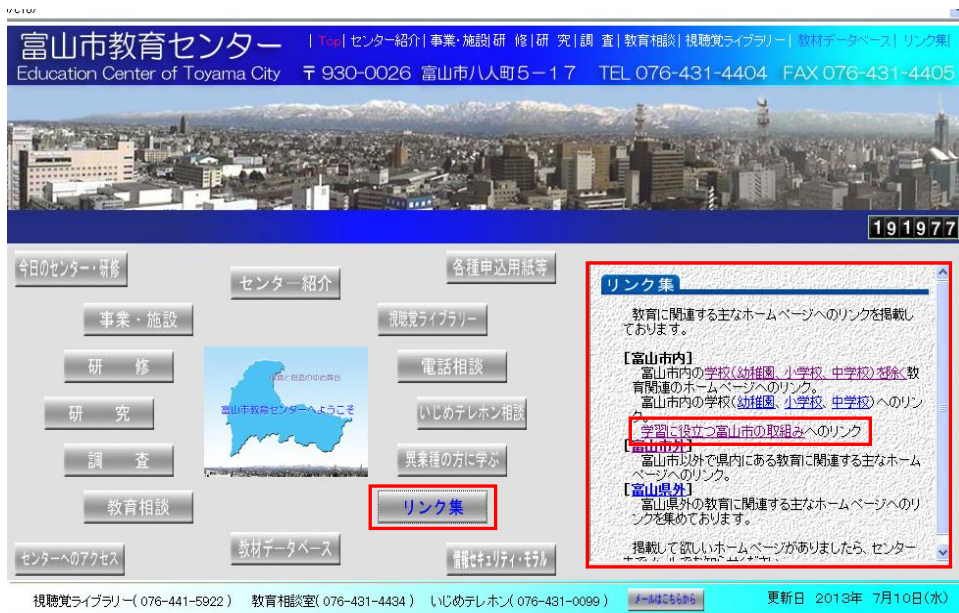


## ②実践校への支援

富山市のりもの語り教育に取り組む小学校に対して、学習教材に係る印刷費の支援、校外活動（ライトレールの見学等）を行う場合の交通事業者との連絡調整を行う。また、公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団による学校支援制度の周知、申請のサポート等を行う。

## ③富山市教育センターホームページでの情報発信

富山市教育センターのホームページ上で、富山市のりもの語り教育に関する説明や学習プログラムのパッケージ一式について情報発信を行う。富山市のりもの語り教育を含めた富山市作成の各種教材と併せて、富山市教育センターホームページのリンク集に「学習に役立つ富山市の取組み」というページを設ける（平成25年8月6日設置済）。



### 「学習に役立つ富山市の取組み」

<p>「わたしたちのくらしと税」 (納税課)</p>	<p>「美しい富山」 (環境センター)</p>	<p>「水とわたしたち」 (上下水道局)</p>	<p>「富山市のりもの語り教育」 (交通政策課)</p>



#### ④持続発展教育（ESD）との連携

持続発展教育（ESD）は、「今と未来を生きるすべての人々のことを考え、よりよい社会づくりにかかわろうとする心と態度を育てる」を目的としている。富山市のりもの語り教育と持続発展教育（ESD）の考え方は、重なる部分がある。既に一定の普及啓発に成功している持続発展教育（ESD）と連携し、「富山市学校教育指導方針」の持続発展教育のページに富山市のりもの語り教育に関する内容を掲載する。

**持続発展教育（ESD）**

今と未来を生きるすべての人々のことを考え、よりよい社会づくりにかかわろうとする心と態度を育てる。

○ 重点

1 ESD (Education for Sustainable Development) の基本的な考え方を共通理解する。

**【ESDとは】**  
「持続可能な社会の担い手を育む教育」

ESDとは、私たちが将来の世代が、この地球で生きていくことを困難にするような問題について考え、立ち向かい、解決するための学びである。

ESDの実践には、特に次の2つの視点が必要である。

- ・ 人格の発達や自律心、判断力、責任感などの人間性をはぐくむこと。
- ・ 他人との関係性、社会との関連性、自然環境との関連性を認識し、「かかわり」「つながり」を尊重できる個人をはぐくむこと。

**【ESDの基本的な考え方】**

2 ESDの考え方を生かした学習活動の推進に努める。

**【学習・活動 テーマ例】**

**小学校**

低学年  
「生き物となかよし」 「町たんけん」

中学年  
「身近な自然で見つけたこと」  
「富山市のいろいろな乗り物」

高学年  
「くらしと災害」  
「ユネスコスクール わたしができること」

**中学校**

「FOOD! 食を通して、環境問題・食糧問題と世界のつながりを考える」  
「地球と人にやさしい服の選び方」

総合的な学習の時間  
「身近な環境について考えよう」

特別活動  
「自分の役割を果たす—委員会活動—」

児童会・生徒会活動  
「エコキャップを集めよう」(リサイクル委員会の取り組み)  
「世界寺子屋運動への協力」

地域とのつながり  
近隣ファミリー活動 長寿会との活動

**富山市交通環境学習**  
(富山市のりもの語り教育)  
を題材にした学習

環境や社会に意識を向け、自発的に考えて行動できる『将来の富山市民』を育成する教育

- ・ 3～6年生を対象とした学習教材・資料を作成し、HP上で提供している。

※リンク先  
富山市教育センターHP>リンク集>学習に役立つHP  
>学習に役立つ富山市の取り組み>交通環境学習  
<提供教材・資料>  
・指導の展開例・ワークシート・実践例 等

<児童用学習資料>

**【ユネスコ・スクール】**

ユネスコ・スクールとは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校である。現在、我が国では、ユネスコ・スクールを中心にESDの推進が図られている。

平成26年2月現在では、全国で675校が加盟している。  
(本市7小学校加盟)

掲載内容

45

【普及啓発のための取り組み概要】

	取り組み① 新組織の設立	取り組み② 実践校への 支援	取り組み③ 富山市教育 センターHP での 情報発信	取り組み④ 持続発展教育 (ESD) との連携
教員への 普及啓発、 学習プログラム の質の維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の参加</li> <li>・実践授業の開催</li> <li>・学習プログラム見直し・データ更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷費や支援制度への申請サポート等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種情報の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ESDの既存普及啓発方法との連携</li> </ul>
保護者を含めた 市民への普及啓発	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種情報の提供</li> </ul>	—

(3) 普及啓発の成果把握

新組織が担う「富山市モビリティ・マネジメント教育の普及啓発」について、以下の2つの点から定量的に成果を把握するものとする。

評価指標①：富山市モビリティ・マネジメント教育の実践校の数

評価指標②：富山市教育センターホームページ、富山市交通政策課ホームページへのアクセス数

評価指標③：富山市へ支援依頼を行った小学校の数

## (4) 平成26年度以降の課題

### ①新組織の設立・実践授業に関する課題

#### 1) 社会科や総合的な学習の時間の部会長の負担が大きい

##### 第2回協議会でのご意見

- ・新組織「富山市のりもの語り教育推進協議会」について懸念がある。小学校教育研究会の部会長は数年おきに交代する役職であり、また部会長の任務も負担が大きい。部会長に新組織の部会長を依頼しても、どの程度の任務を行えるか未知数である。(寺本委員)

#### 2) 継続的に関わることができるけん引者が必要

##### 第2回協議会でのご意見

- ・新組織をけん引する人物がいなければ、事業の持続的な発展は望めない。(高山会長)
- ・交通エコロジー・モビリティ財団としても、当初メンバーの人事異動による組織の弱体化を懸念している。モビリティ・マネジメントのような事業は人に依存する部分が大きく、熱意のあるメンバーに替わり関心の薄いメンバーが参加するようになり、やがて事業が中止となる例もある。組織の支柱となるようなメンバーが必要である。検討していただきたい。(加藤部長)
- ・持続発展教育 (ESD) の取組みで有名な富山大学の松本謙一教授を会長に据えるとよい。松本氏は教員からの人気も高い。(柳内委員)
- ・小学校教育研究会の部会長は異動があるため、部会長の他に長期間にわたって継続して参加するメンバーがいるとよい。そのようなメンバーがいれば部会長の負担も少なくなる。5年間程度は交代をしないメンバーが会長になる仕組みを作らなければ、事業の発展は見込めない。(青山委員)
- ・松本氏は適任であるが、多忙であり、会長職を引き受けてもらえるかは疑問だ。富山大学の大西宏治准教授も適任である。しかし大西氏は人文系であり教育系ではないため、松本氏を大西氏がサポートするような体制が望ましい。本事業の永続的な発展には富山大学との協力体制は不可欠である。(寺本委員)

#### 3) 新組織のメンバーについて再検討が必要

##### 第2回協議会でのご意見

- ・富山市のりもの語り教育推進協議会メンバーとして富山市交通政策課の職員が入っていない。事務局として支援するだけでなく、富山市交通政策課の肩書のある職員が協議会メンバーとして参加すべきである。(谷口委員)
- ・新組織には、交通機関関係者にも参加してもらおうとよいのではないかと。(水野委員)

#### 4) 校長会と教育委員会の協力が必要

##### 第2回協議会でのご意見

- ・教育委員会や校長会の協力を得られるかどうかは、森市長と富山市職員の熱意にかかっている。(柳内委員)
- ・校長会の協力を得るのは難しいが、ぜひ実現させたい。富山市には失敗を恐れずに取り組んでほしい。(高山委員長)

## 5) 新組織のメンバーへの引き継ぎが重要

### 第2回協議会でのご意見

- ・将来的に、新組織をどのようにして、意欲のある教員に引き継いでいくかが課題である。当初は、学習プログラムの開発に携わった当初メンバーの教員に参加していただくとよい。その後、当初メンバーの教員の経験や思いをどうやって新しいメンバーの教員に伝えていくかが重要である。この件については、小学校教育研究会の各部会と富山市教育委員会、富山市交通政策課の3者が協力していく必要がある。特に、交通政策課は指導的役割をもつ必要があるだろう。(高山会長)

## 6) ユネスコスクールとの連携が必要

### 第7回検討部会でのご意見

- ・平成26年度以降の学習プログラムの普及啓発については、ユネスコスクール認定校の協力を得るとよい。富山市のりもの語り教育と持続発展教育は共通する部分が多い。(柳内座長)

## 7) 実践授業の開催が必要

### 第2回協議会でのご意見

- ・平成26年度以降は、社会科、総合的な学習の時間の双方が研究集会で富山市のりもの語り教育の実践発表を行い、その成果を各部会の実践報告会で発表するくらいの取組みが必要だ。富山市のりもの語り教育推進協議会のみで活動しては事業の持続的な発展は望めない。教員に新組織の取組みをPRするには、実践報告会が鍵となる。(寺本委員)
- ・1年に1校の授業実践の実現については、4月の校長会で実践校の募集と決定を行うなど、意識的に取り組む必要がある。(青山委員)
- ・小学校教育研究会では平成25年度に4回の研修を行い、そのうち1回は“おでかけ定期券って何だろう？”の模擬授業を行った。このような地道な活動により、富山市のりもの語り教育の良さを教員に広めていくしかない。(堀江委員)

## 8) 社会科5年生の学習プログラム開発が必要

### 平成24年度 第3回協議会でのご意見

- ・平成25年度中に社会科5年生の学習プログラムを確立させることは難しい。社会科5年生の学習プログラムは、平成25年度に初めて公開授業を実施することになるため、公開授業後にワークショップを行って修正を加えても再度公開授業を実施する時間は無い。また、学習プログラムの検討は、検討部会のメンバーである教員が各自1つの学習プログラムを担当して進めている。検討部会のメンバーには社会科の教員は3名しかいないため、社会科5年生の学習プログラムを主体的に検討する担当教員を検討部会メンバーから出すことは難しい。(柳内委員)

### 第1回協議会でのご意見

- ・学習プログラムを作成してきた立場から、次年度以降の各小学校での活用や、学習プログラムの改良などを、継続的に行ってほしいと強く希望する。(柳内委員)

## ②学習プログラムの実施効果把握に関する課題

### 1) 児童に対するアンケートの設問内容について再検討が必要

#### 第2回協議会でのご意見

- ・児童への意識変化アンケートの内容について疑問がある。総合的な学習の時間の目的は児童の生きる力を伸ばすことであり、電車好きの児童を増やすことではない。意識変化アンケートの設問がこのような内容では、教員の学習プログラムを実施しようという気持ちに悪影響である。富山市のりもの語り教育における、総合的な学習の時間の学習プログラムでは、非常に多くの情報を児童に提示してしまっている。学習プログラムの検討では、児童に一方的に情報を押し付けるのではなく、児童が情報を求めるのに応じて提示するような内容になるように工夫をしてきた。総合的な学習の時間の成果を計るための設問としては、“自分の課題をもてましたか？”や、“頑張りたいことが見つかりましたか？”といった内容が望ましい。(堀江委員)
- ・この意識変化アンケートは、児童にとって回答しやすいものになっており、教員にとっては物足りない。総合的な学習の時間では、複合的な現実課題を自分に引き寄せて考えることがポイントになっている。まちづくりについて考える場合も、“授業を受けてまちが好きになった”というレベルの結果ではなく、自分で情報を収集し、解決策を考えられるようになることが求められる。総合的な学習の時間の学習プログラムとして、富山市のりもの語り教育の“くしとだんごのまちづくり”の内容は、絶好のテーマである。堀江委員の指摘を受けて意識変化アンケートの内容をグレードアップしてほしい。(寺本委員)